

第3章 これまでの取組の評価と課題

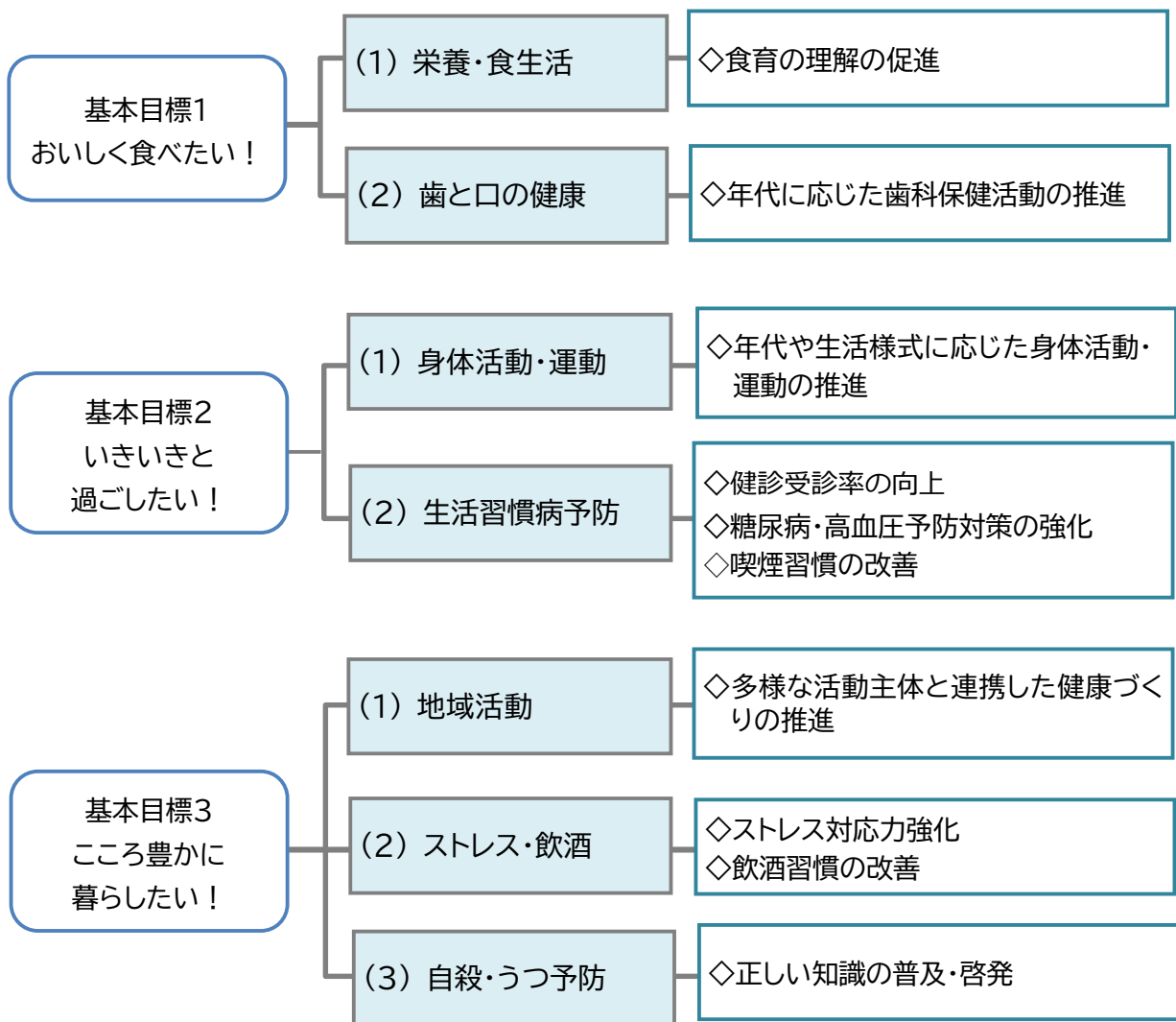
第3章 これまでの取組の評価と課題

達成状況

評価	A=目標値に達した	C=変わらない
	B=目標値に達していないが、改善傾向にある	D=悪化している（達成していない）

1 「第3次健康づくり計画」の評価

◆第3次計画体系図



基本目標 1 おいしく食べたい！

(1) 栄養・食生活

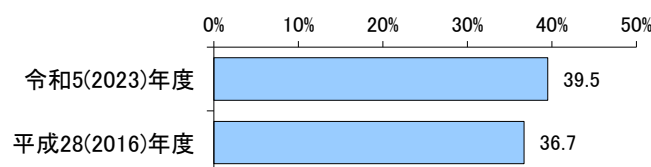
ア. 主な取組

- 様々な機会や媒体を通じて食育について啓発を行いました。
 - ・毎月の広報しょうばら「食育コーナー」、市から配布するチラシ等への情報掲載
 - ・毎月19日に住民告知放送、公式ラインによる周知
 - ・市役所庁舎、図書館においてパネル展示
- 学校栄養職員や地域の食育団体等と連携した料理教室は、令和2（2020）年度から新型コロナウイルス感染症の影響により開催できず、各小学校を通じて資料提供による啓発を行いました。
- 小学生を対象として、食育ポスターコンクールを実施し、作品を市内の店舗で展示しました。
- 「血管いきいきプロジェクト」の一環として、減塩に関する栄養指導媒体を西城市民病院の保健師、管理栄養士と協働して作成し、健診会場等に掲示しました。
- 備北地域保健対策協議会の関係機関と協力し、「減塩」「野菜たっぷり」メニューの提供に取り組む飲食店等を健塩応援店として登録し、減塩と野菜摂取の取組を推進しました。
- 保育所、小・中学校において、規則正しい生活習慣について児童、生徒や保護者に啓発を行いました。

イ. 健康意識・生活習慣調査結果

- 「塩分を控えるようにしている」人の割合は上昇していますが4割未満で、目標値に達しておらず、男女ともに若い世代で低くなっています。

〔塩分を控えるようにしている人の割合(前回調査結果との比較)〕
(20歳以上)



- 「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている」人の割合は3割台であり、目標値に達しておらず、男性の30～60歳代、女性の20歳代、40歳代で低くなっています。

〔食事について気をつけていること(性・年代別)〕
(20歳以上)

	回答数	1日3食、 食べるよ うにして いる	塩分を控 えるよう にしてい る	主食・主 菜・副菜 を組み合 わせた食 事を1日2 回以上ほ ぼ毎日食 べている	間食を控 えるよう にしてい る	腹八分目 を心がけ ている	毎食たん ぱく質の 含まれる 食事を とってい る	野菜を1 日350g以 上とする ように努 めている	その他	無回答
男性 20～29歳	30	53.3%	23.3%	30.0%	33.3%	16.7%	20.0%	6.7%	3.3%	30.0%
30～39歳	42	33.3%	16.7%	11.9%	16.7%	7.1%	14.3%	-	7.1%	40.5%
40～49歳	67	41.8%	14.9%	10.4%	14.9%	16.4%	9.0%	9.0%	6.0%	34.3%
50～59歳	72	50.0%	37.5%	23.6%	27.8%	20.8%	12.5%	8.3%	8.3%	29.2%
60～69歳	147	62.6%	29.3%	26.5%	29.9%	19.0%	16.3%	12.9%	2.7%	17.0%
70～79歳	159	63.5%	41.5%	35.2%	24.5%	24.5%	15.1%	15.7%	3.8%	21.4%
80歳以上	70	74.3%	50.0%	42.9%	15.7%	32.9%	27.1%	11.4%	-	14.3%
女性 20～29歳	31	61.3%	19.4%	19.4%	16.1%	12.9%	16.1%	9.7%	6.5%	22.6%
30～39歳	62	56.5%	19.4%	30.6%	19.4%	17.7%	21.0%	8.1%	6.5%	29.0%
40～49歳	86	44.2%	23.3%	20.9%	18.6%	23.3%	12.8%	11.6%	3.5%	29.1%
50～59歳	95	55.8%	40.0%	35.8%	25.3%	33.7%	24.2%	12.6%	4.2%	20.0%
60～69歳	141	61.0%	46.8%	42.6%	27.0%	23.4%	30.5%	16.3%	5.7%	13.5%
70～79歳	181	78.5%	67.4%	52.5%	26.5%	26.0%	39.2%	18.8%	1.7%	5.0%
80歳以上	71	83.1%	46.5%	52.1%	22.5%	26.8%	31.0%	14.1%	1.4%	8.5%

ウ. 3次計画目標指標の達成状況

	3次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
成果目標				
食育の日(毎月19日)を知っている人の割合	21.1%	25.1%	40%	B
1日3食とるようにしている人の割合	60.1%	61.6%	80%	B
塩分を控えるようにしている人の割合	36.7%	39.5%	50%	B
栄養バランスに気をつけている人の割合	33.8%	34.7%	50%	B
取組目標				
料理教室や生活習慣病予防等に関する学習の機会の提供回数	155件	43件(R4)	170件	D
野菜を使った簡単レシピ・伝統食レシピの配布数	-	247部(R4)	300部	B
食育推進キャラクター「5つのちから」のぬりえ等の活用か所数	3か所	24か所(R4)	20か所	A

※料理教室の開催や学習機会の提供は、新型コロナウイルス感染症の影響により回数の減少、中止となり、コロナ禍以前までには実施できていない。

工. 取り組むべき主な課題

- 若い世代、働く世代の減塩や栄養バランスがとれた食習慣への改善
- 男性の食育に関する認知度・関心度・実践度の向上
- 食育を効果的に実践するために、事業所と連携した取組の推進

(2) 歯と口の健康

ア. 主な取組

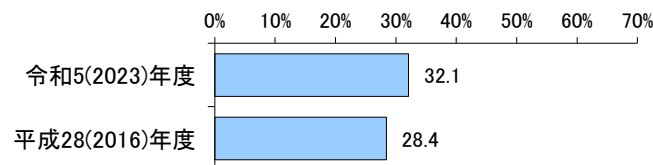
- 歯科衛生教育事業として、希望のあった保育所に教材の貸出しを行うとともに、歯磨き指導を保育所・幼稚園、小・中学校で行いました。
- 歯科衛生連絡協議会の事業の一環として、80歳以上で20本以上の歯を保有している市民を表彰しました。
- 歯周病検診の取組として、節目年齢の40歳、50歳、60歳、70歳に歯周病検診受診券を送付し、未受診者には、受診勧奨を行いました。
- 高齢者の介護予防事業において、オーラルフレイル予防の啓発を行いました。
- 保育所において、食後の仕上げ磨きを行いました。
- 保育所、小・中学校において、歯磨き指導や歯科健診を行いました。

イ. 健康意識・生活習慣調査結果

- 80歳で20本以上、60歳で24本以上、40歳で喪失歯がない人の割合は上昇しており、60歳、40歳は目標を達成しました。

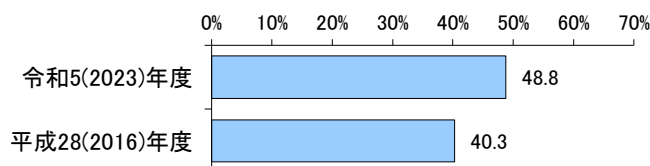
[80歳で20本以上の自分の歯を持つ人の割合(前回調査結果との比較)]

(80歳[75~84歳])

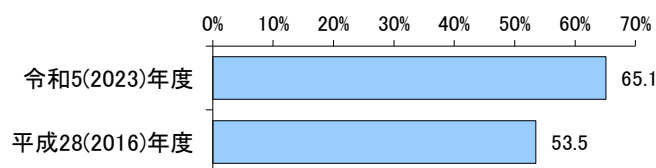


[60歳で24本以上の自分の歯を持つ人の割合(前回調査結果との比較)]

(60歳[55~64歳])

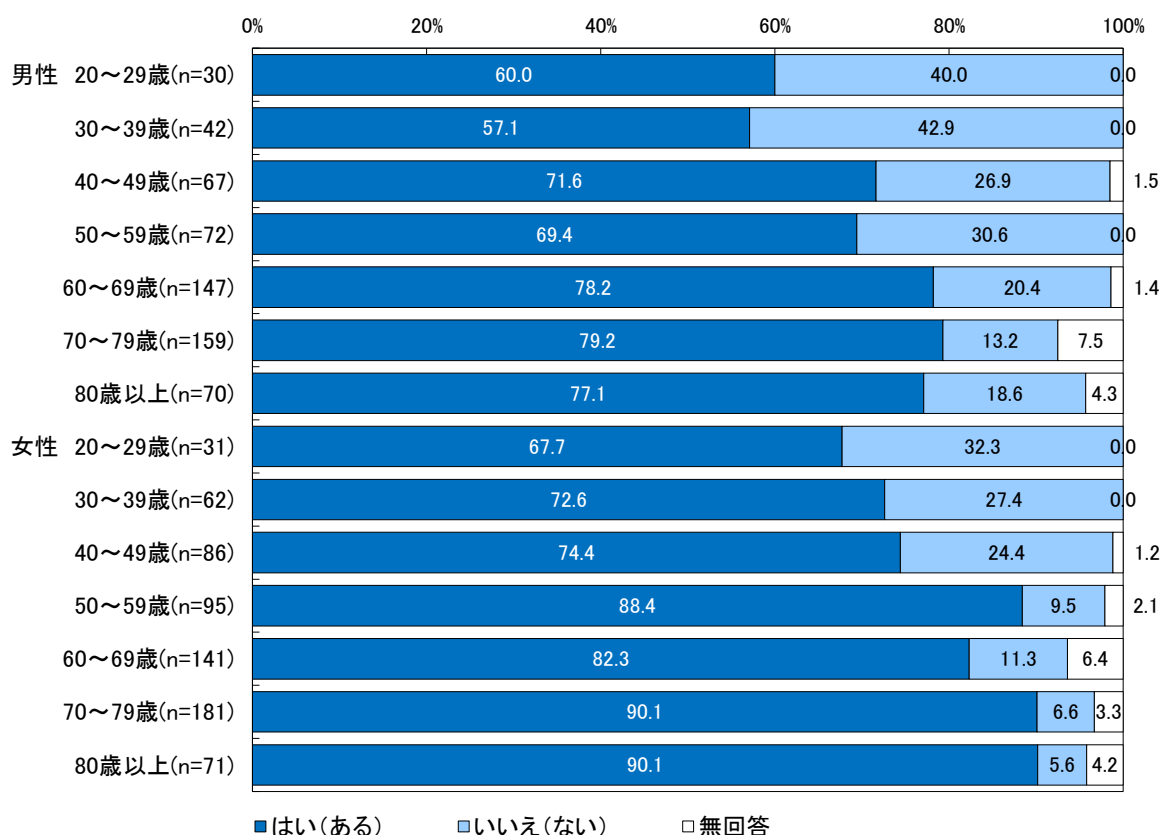


〔40歳で喪失歯のない人の割合(前回調査結果との比較)〕
 (40歳[35~44歳])



➤ かかりつけの歯科医がない人の割合は若い世代で高くなっています。

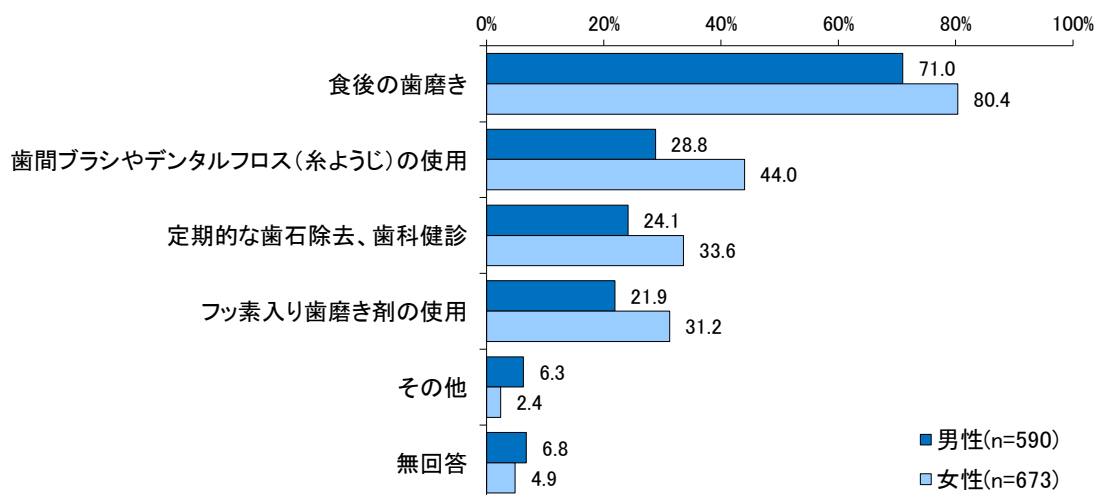
〔かかりつけ歯科医の有無(性・年代別)〕
 (20歳以上)



- 歯間ブラシやデンタルフロス（糸ようじ）を使用している人の割合は男性で低くなっています。

〔歯や口の中の健康を維持するために気をつけていること(性別)〕

(20歳以上)



ウ. 3次計画目標指標の達成状況

	3次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
成果目標				
80歳で20本以上の自分の歯を持つ人	28.4%	32.1%	37%	B
60歳で24本以上の自分の歯を持つ人	40.3%	48.8%	43%	A
40歳で喪失歯のない人	53.5%	65.1%	60%	A
12歳でむし歯のない子ども	58.5%	67.8%(R4)	65%	A
3歳児でむし歯のない子ども	81.8%	83.2%(R4)	85%	B
取組目標				
妊婦歯科健診の受診率	46.2%	59.2%(R4)	50%	A
歯周病検診の受診率	—	20.8%(R4)	20%	A

※成人の歯数：28～32本

エ. 主な課題

- 乳幼児健診や歯磨き指導等を通して、子どもの歯科保健や適切な歯科受診についての啓発
- 若い世代からオーラルフレイル予防やかかりつけ歯科医を持つための啓発
- 歯間ブラシやデンタルフロス（糸ようじ）の使用等、適切な口腔ケアの実践や定期的な歯科健診等の行動につなげる取組の啓発

基本目標 2 いきいきと過ごしたい！

(1)身体活動・運動

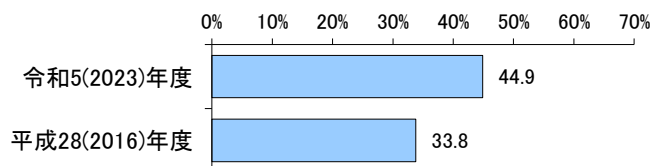
ア. 主な取組

- 各地域でウォーキング教室や運動教室を行いました。
- 庄原商工会議所、備北商工会、東城町商工会の会報配布に併せ、健康、身体活動に関する情報提供を行いました。
- シルバーリハビリ体操指導士による体操の普及を支援しました。
- 保育所、小・中学校において、しっかり身体を動かす環境をつくりました。
- 小・中学校において、体づくりに取り組みました。
- 自治振興区において、シルバーリハビリ体操やウォーキング、グラウンドゴルフ、ヨガなどに取り組みました。
- 自治振興区において、ニュースポーツの普及に取り組みました。
- 事業所において、就業前のラジオ体操に取り組みました。

イ. 健康意識・生活習慣調査結果

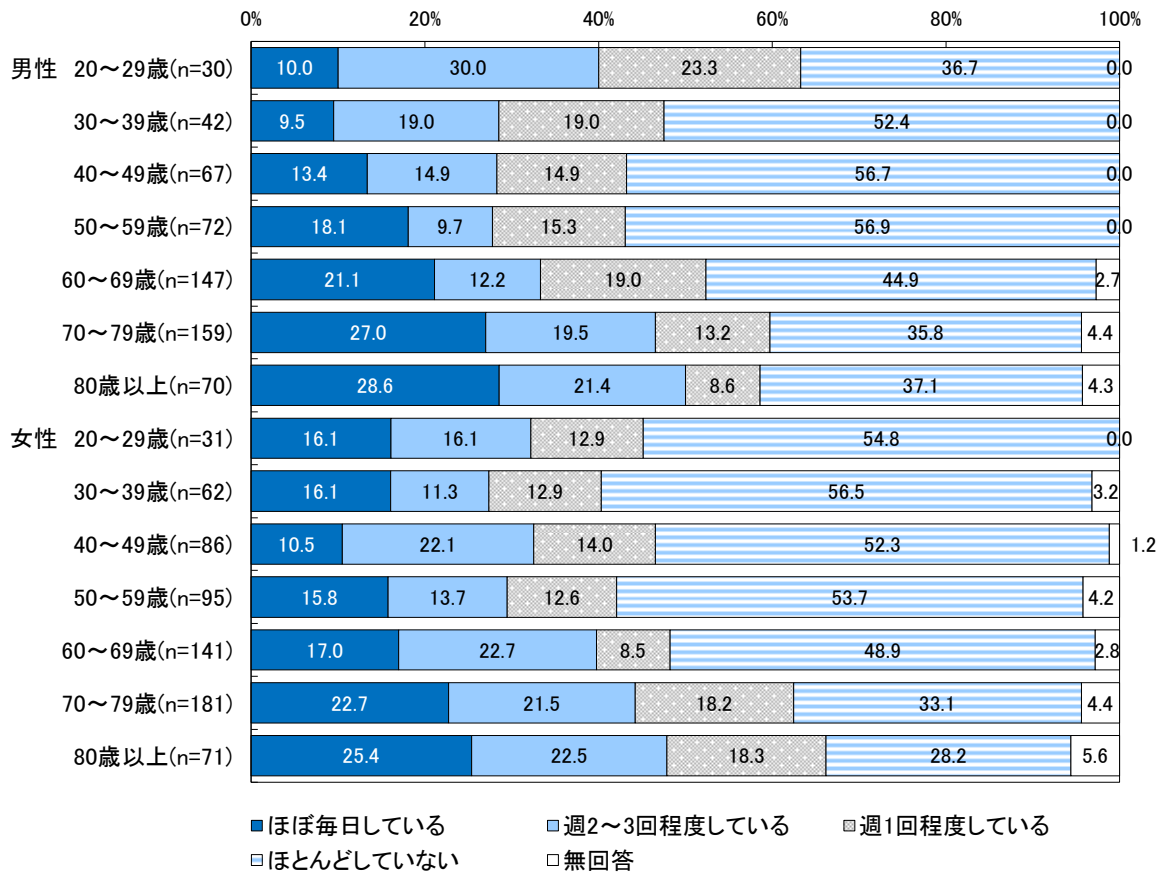
- 20～50歳で週1回以上運動している人の割合は上昇し、目標値を達成しましたが、男性30～50歳代、女性20～50歳代は他の世代よりも低い状況です。

〔週1回以上運動している人の割合(前回調査結果との比較)〕
(20～50歳代)



〔運動の頻度(性・年代別)〕

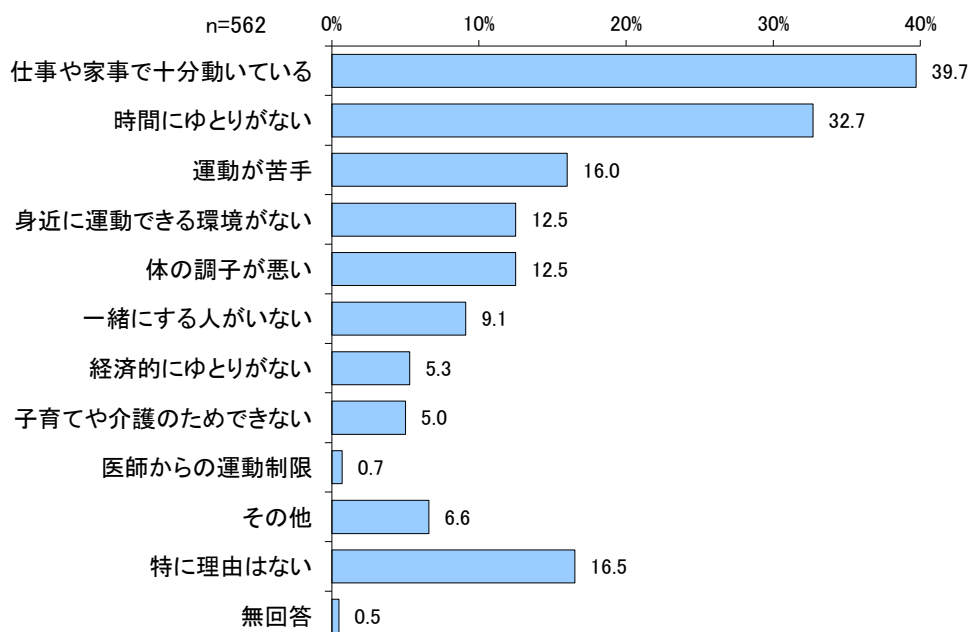
(20歳以上)



- 運動をしていない理由として、「時間にゆとりがない」と回答した人の割合が高くなっています。また、「身近に運動できる環境がない」、「一緒にする人がいない」も挙がっています。

〔運動をしていない理由〕

(20歳以上)



ウ. 3次計画目標指標の達成状況

		3次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
成果目標					
週1回以上運動している人の割合	全体	49.1%	52.6%	55.0%	B
	20～50歳代	33.8%	44.9%	39.0%	A
	60歳代以上	60.6%	57.3%	66.0%	D
1回30分以上の軽く汗をかく運動を、週2日以上、1年以上実施している人の割合		31.2%	33.8%(R4)	35.0%	B
日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合		47.4%	47.6%(R4)	50.0%	B
取組目標					
運動教室の実施回数		77回	115回(R4)	77回	A
健康に関する情報提供を行った事業所数		3か所	3か所(R4)	延10か所	C

エ. 取り組むべき主な課題

- 若い世代や時間にゆとりがない人も気軽に日常的に取り組める身体活動・運動の普及
- 高齢者や体の調子が悪い人も取り組みやすい体操や運動の普及
- 地域と連携した運動に自然に取り組める環境の情報提供と整備

(2)生活習慣病予防

① 健診受診率の向上

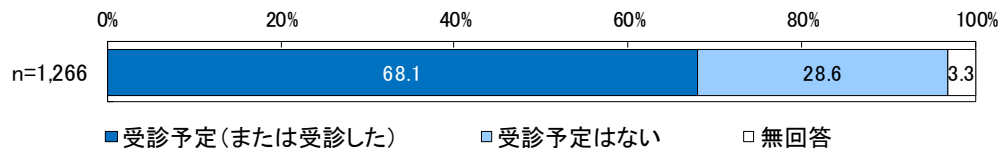
ア. 主な取組

- 「がん」の知識の普及とがん検診受診率向上に向け、がん講演会を行いました。
- 様々な健診受診率向上の取組を行いました。
 - ・WEBによる健診申込システムの導入やAIの分析を用いた受診勧奨
 - ・集団健診機会の増加や土曜日健診の実施
 - ・特定健診とがん検診の同日実施
 - ・ショッピングセンターでの女性のがん検診の実施
 - ・対象年齢への乳がん・子宮がん検診の無料クーポン券配布
 - ・後期高齢者の基本健診及びがん検診自己負担の無料化
- 女性のがん検診に併せ、ピンクリボンキャンペーン実行委員会と啓発資料を配布しました。
- 事業所において、従業員が健康診断や保健指導、がん検診を受ける環境を整備しました。

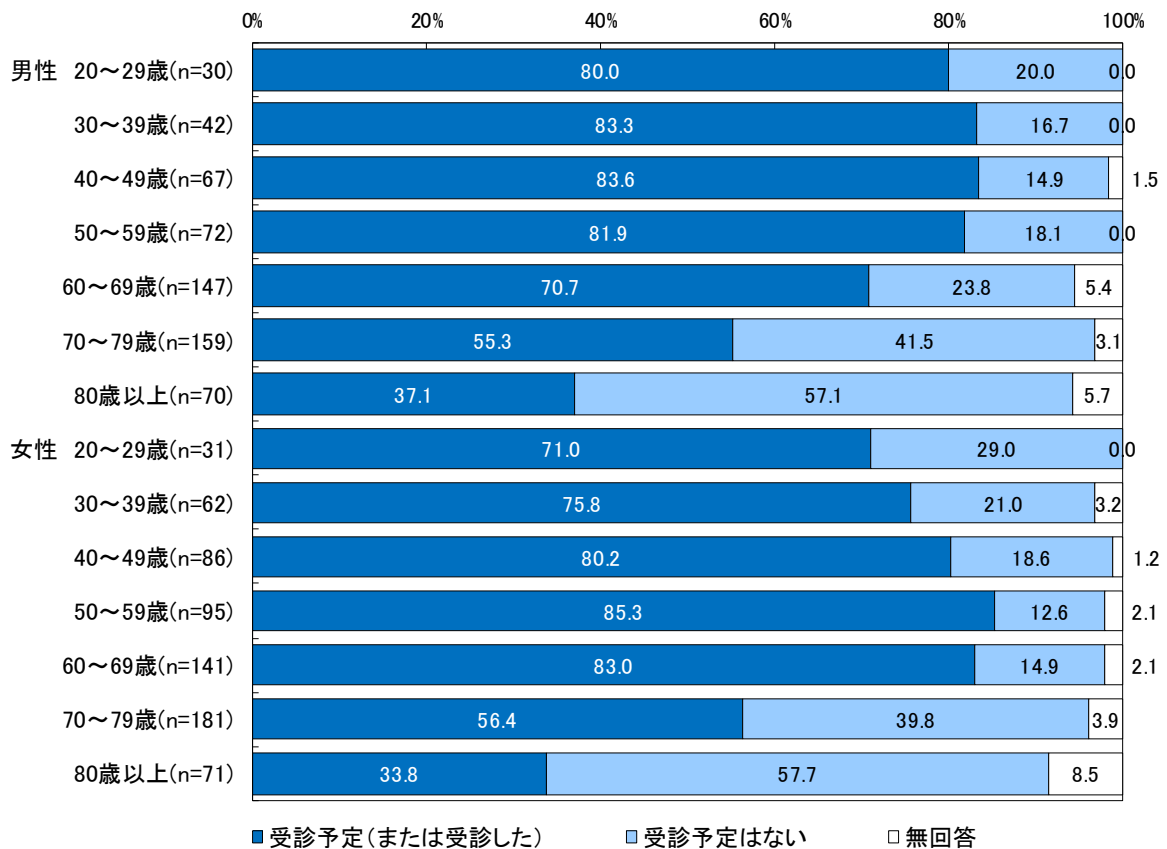
イ. 健康意識・生活習慣調査結果

- 健診を「受診予定（受診した）」の人の割合は約7割であり、70歳以上で低くなっています。

〔健康診断の受診予定〕
(20歳以上)



〔健康診断の受診予定(性・年代別)〕
(20歳以上)



ウ. 3次計画目標指標の達成状況

		3次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
成果目標					
基本健康診査受診率(特定健診)		43.8%(H27)	46.0%(R4)	48.0%	B
がん 検診 受診率	胃がん(50~69歳)	12.7%(H27)	12.6%(R3)	15.0%	D
	肺がん(40~69歳)	12.8%(H27)	9.5%(R3)	15.0%	D
	大腸がん(40~69歳)	12.5%(H27)	10.6%(R3)	15.0%	D
	子宮がん(20~69歳)	18.1%(H27)	9.3%(R3)	25.0%	D
	乳がん(40~69歳)	19.7%(H27)	12.9%(R3)	25.0%	D
精密 検査 受診率	胃がん(50~69歳)	75.6%(H26)	56.8%(R2)	90.0%	D
	肺がん(40~69歳)	49.2%(H26)	65.4%(R2)	80.0%	B
	大腸がん(40~69歳)	31.1%(H26)	57.8%(R2)	60.0%	B
	子宮がん(20~69歳)	76.0%(H26)	77.8%(R2)	90.0%	B
	乳がん(40~69歳)	82.1%(H26)	100.0%(R2)	90.0%	A
取組目標					
健診の必要性の啓発について連携した 学校数		1校	7校	3校	A
健診の必要性の啓発について連携した 事業所		2か所	0か所(R4)	延10か所	D

※基本健康診査受診率及び各がん検診受診率は、新型コロナウイルス感染症の影響により低下し、
コロナ禍以前までには回復していない。

エ. 取り組むべき主な課題

- 健診の受診勧奨と受診しやすい体制づくり等の取組による、特定健康診査、がん検診の受診率の向上
- 健診結果に応じて、必要な精密検査の受診勧奨
- 健診結果の生活への活かし方の啓発
- 事業所と連携を図り、働く世代の生活習慣病予防のための知識を普及

② 糖尿病・高血圧対策の強化

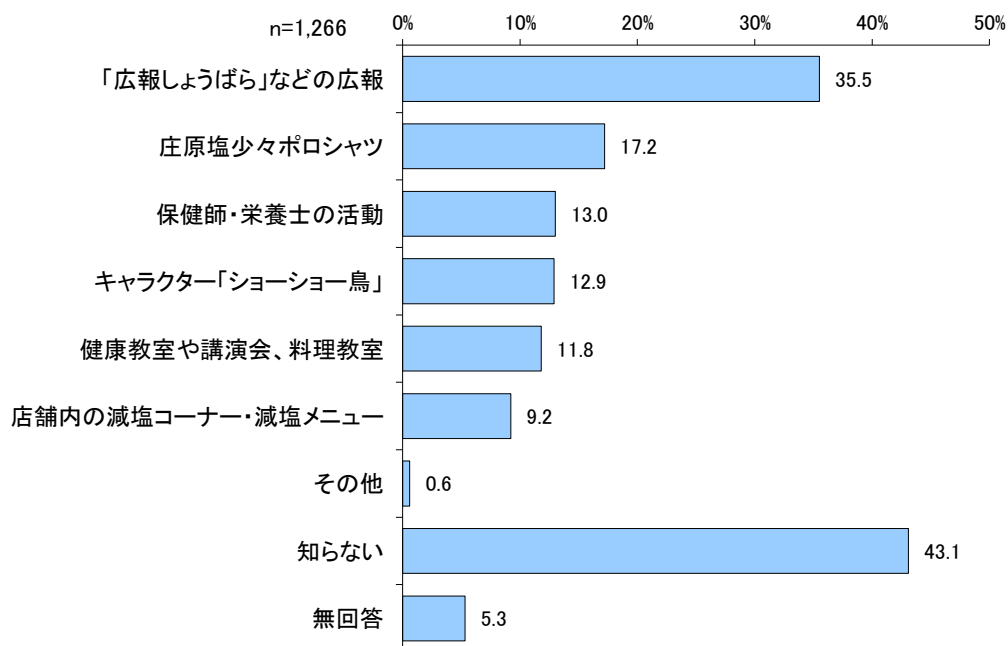
ア. 主な取組

- 「世界糖尿病デー」に合わせて市役所等をライトアップし、糖尿病予防の啓発を行いました。
- 市主催のイベント等、様々な場を活用して糖尿病に関する掲示や健康チェック等を行いました。
- 特定健診後保健指導として、糖尿病予防教室や血管いきいき講座を行いました。
- 運動習慣の定着を促すため、通年で血管いきいき運動教室（血圧・脂質・血糖が保健指導判定値の者）を行いました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、店舗でのイベントは行わず、生活習慣病に関するパネル掲示等を行いました。
- 庄原商工会議所、備北商工会、東城町商工会の会報配布に併せ、糖尿病等に関する情報提供を行いました。
- 高校等において、健康な生活や生活習慣病、がんについて授業のテーマとして学習しました。

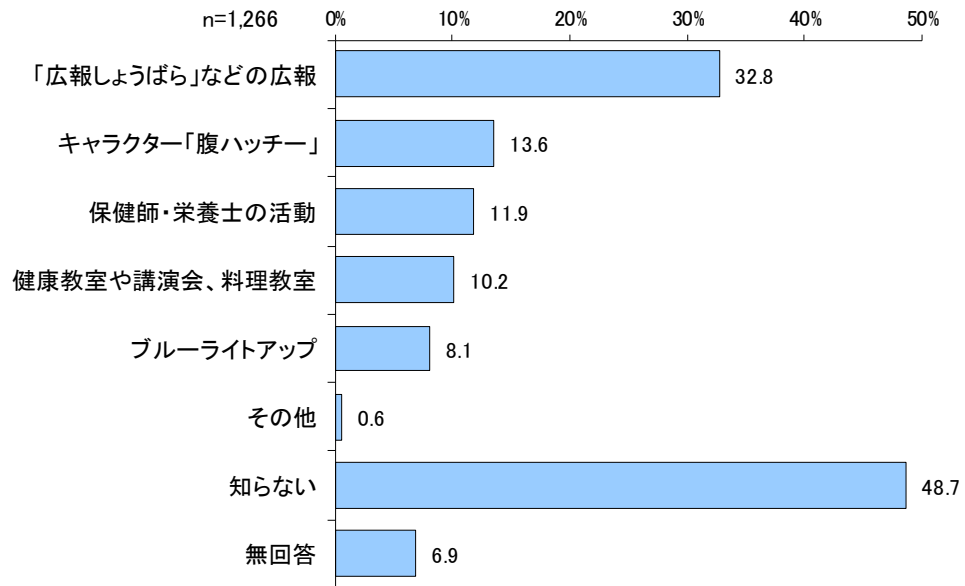
イ. 健康意識・生活習慣調査結果

- 市の高血圧対策、糖尿病対策を知っている人の割合は約5割となっています。

〔庄原市が実施している高血圧対策で知っているもの〕
(20歳以上)



〔庄原市が実施している糖尿病対策で知っているもの〕
(20歳以上)



ウ. 3次計画目標指標の達成状況

		3次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
成果目標					
特定健診受診者に占めるメタボリックシンドローム該当者の割合	男性	28.3%	26.8%(R3)	26.0%	B
	女性	10.6%	7.8%(R3)	9.0%	A
特定健診受診者に占める血圧、血糖、血中脂質の所見を併せ持つ人の割合		6.3%	6.8%(R4)	5.0%	D
予防キャラクター「ショーショー鳥」を知っている人の割合		8.8%	12.9%	20.0%	B
予防キャラクター「腹ハッチー」を知っている人の割合		9.2%	13.6%	20.0%	B
取組目標					
生活習慣病予防の協力店舗数		6店舗	6店舗	10店舗	C
店舗での生活習慣病予防イベント開催数		5回	※(R4)	10回	D
特定保健指導の終了率		29.4%(H27)	22.7%(R4)	37.0%	D
事業所での生活習慣病予防について健康教育開催数		3回	※(R4)	10回	D

※新型コロナウイルス感染症の影響により、店舗でのイベントや事業所での健康教育は実施しなかった。

エ. 取り組むべき主な課題

- 健康への関心の有無に関わらず、様々な世代へ向けた生活習慣病、がんに関する知識や予防の啓発
- 地域や事業所等と連携した糖尿病や高血圧等の生活習慣病の発症予防や重症化予防の取組の推進

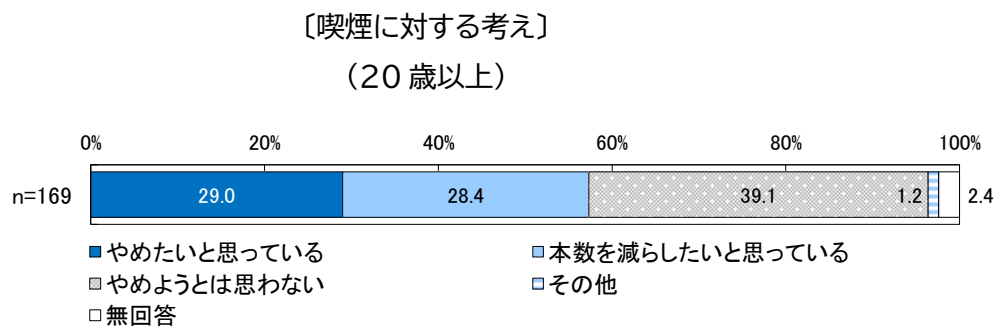
③ 喫煙習慣の改善

ア. 主な取組

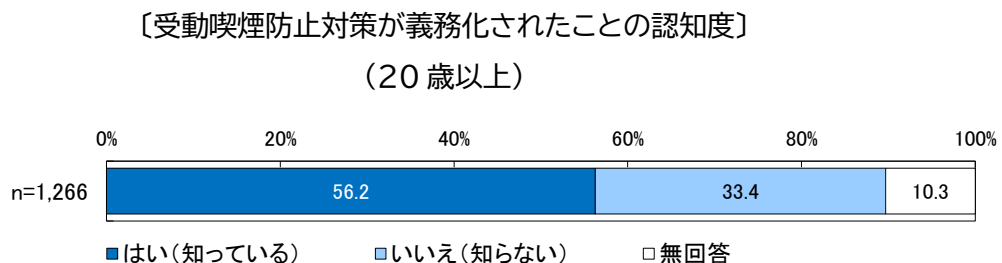
- 改正健康増進法(受動喫煙防止)の施行時や、世界禁煙デー・禁煙週間、がん征圧月間等に合わせ、喫煙の害や受動喫煙について啓発を行いました。
- 庄原商工会議所、備北商工会、東城町商工会の会報配布に併せ、喫煙に関する情報提供を行いました。
- 母子健康手帳交付時に妊婦の喫煙が健康や胎児に与える影響について伝え、家族も含めた禁煙サポートを行いました。
- 中学校と高校にポスターを掲示するとともに、中学3年生を対象に禁煙の啓発を行いました。
- 小・中学校において、喫煙防止教室を行いました。
- 事業所において、従業員の禁煙サポートを行いました。

イ. 健康意識・生活習慣調査結果

- 喫煙する人のうち、約3割がやめたいと思っています。



- 受動喫煙防止対策が義務化されたことを知っている割合は5割台に留まっています。



ウ. 3次計画目標指標の達成状況

		3次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
成果目標					
たばこを吸う人の割合	男性	22.2%	21.4%	19.0%	B
	女性	6.5%	6.4%	5.0%	B
妊婦の喫煙率		4.8%	5.8%	0.0%	D
取組目標					
喫煙を防止するために連携した学校数		7校	11校	11校	A
禁煙対策について連携した事業所数		－	3か所	10か所	B

エ. 取り組むべき主な課題

- 事業所や学校と連携を図り、喫煙や受動喫煙が健康へ及ぼす影響の周知啓発
- 喫煙をやめたい人への支援の充実、禁煙外来の周知

基本目標 3 ころ豊かに暮らしたい！

(1)地域活動

ア. 主な取組

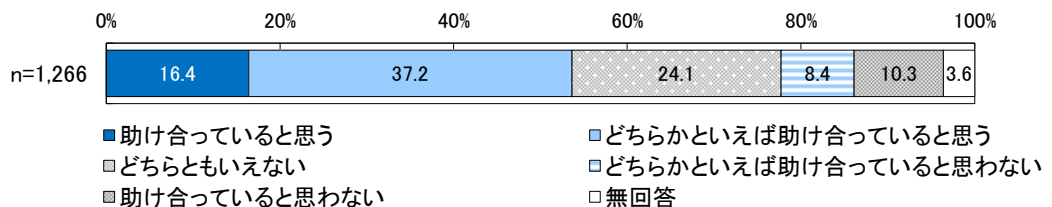
- 社会福祉協議会に委託し、自治振興区との連携により、介護予防普及啓発事業を行いました。また、デイホームや地域サロンの世話役等地域づくりの核となる人を対象に、地域の実情に合わせた内容で地域介護予防活動支援事業を行いました。
- 高齢者の健康づくりと介護予防、自助、互助、共助の地域づくりを意欲的に取り組むことができることを目的として、シルバーリハビリ体操指導士の養成と、指導士会の活動支援を行いました。
- デイホームや地域サロンへ出向き、参加者の健康チェックを行い、健康づくりに関する出前トークを行いました。
- 自治振興区において、社会福祉協議会と連携して地域サロンや、多世代による料理教室、ガーデニング教室など様々な教室を行いました。

イ. 健康意識・生活習慣調査結果

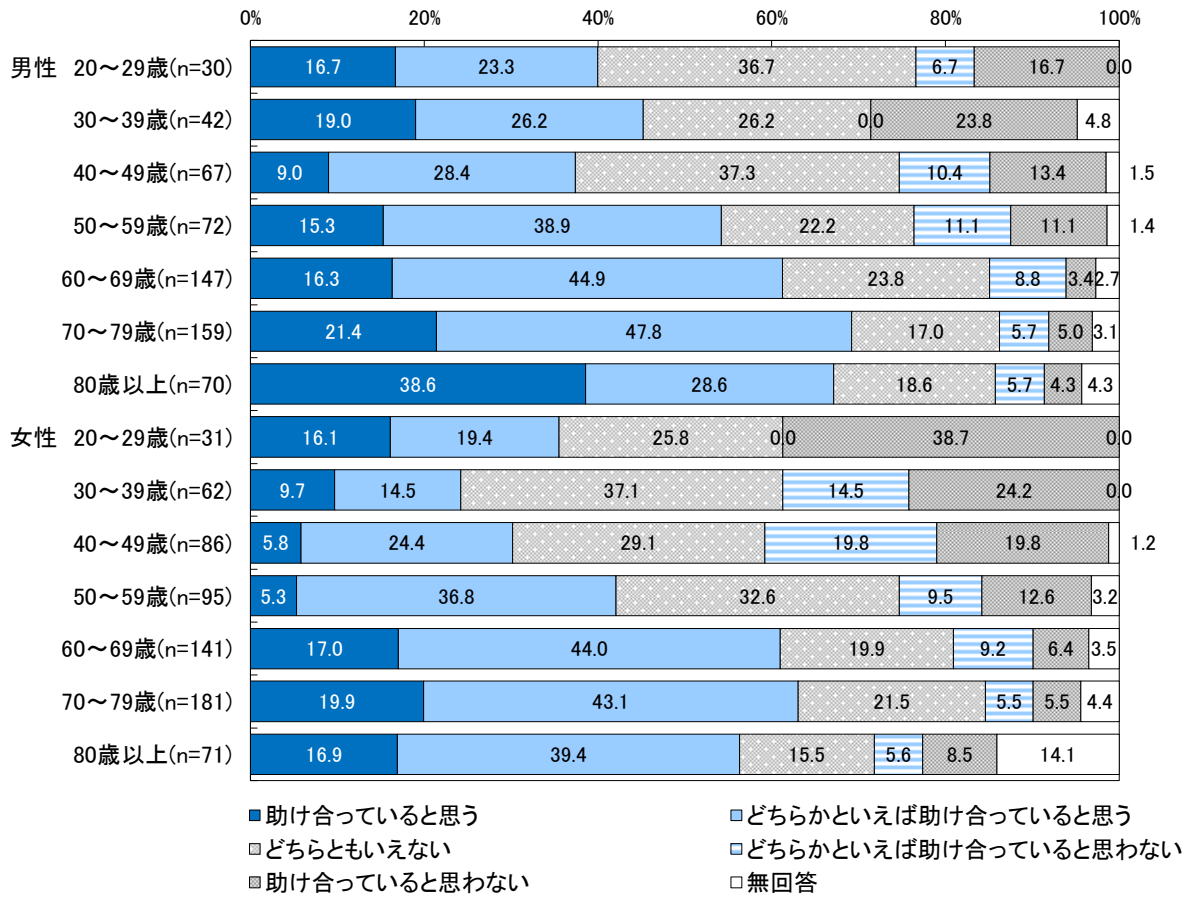
- 地域の人たちと助け合っていると思う人の割合は5割台であり、若い世代で低くなっています。

〔地域での助け合いの状況〕

(20歳以上)

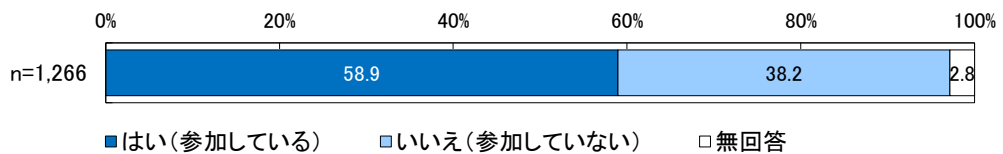


〔地域での助け合いの状況(性・年代別)〕
(20歳以上)

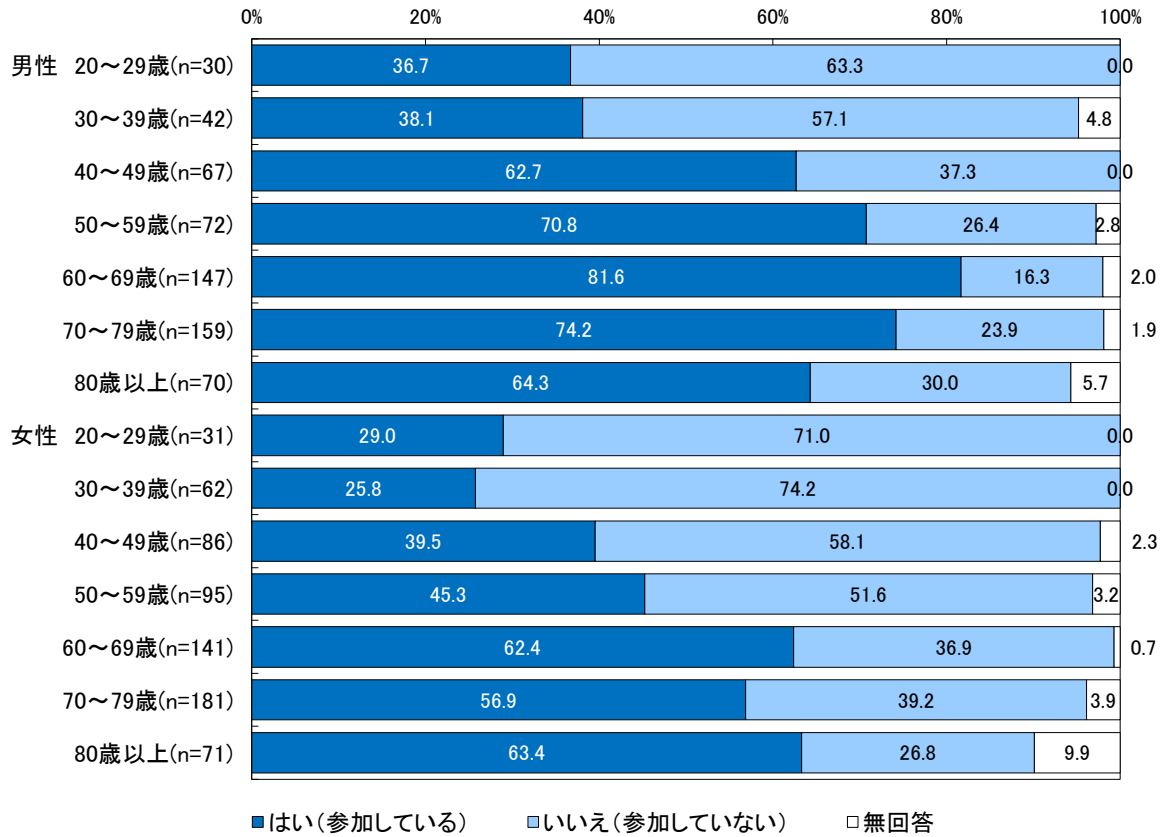


➤ 地域活動に参加している人の割合は5割台であり、若い世代で低くなっています。

〔地域活動への参加状況〕
(20歳以上)



〔地域活動への参加の有無(性・年代別)〕
(20歳以上)



ウ. 3次計画目標指標の達成状況

	3次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
成果目標				
地域活動へ参加している人の割合	53.5%	58.9%	57.0%	A
地域活動を楽しみに感じている人の割合	42.5%	35.8%	46.0%	D
楽しみや生きがいのある人の割合	79.5%	76.5%	82.0%	D
自分を健康だと感じている人の割合	71.1%	74.6%	73.0%	A
取組目標				
小地域サロンの数	151か所	177か所(R4)	203か所	B
シルバーリハビリ体操指導士養成者数	77人	163人	160人以上	A

エ. 取り組むべき主な課題

- 若い世代が地域の活動に参加できる仕組みづくり
- 高齢者の楽しみや生きがいにつながる場の充実

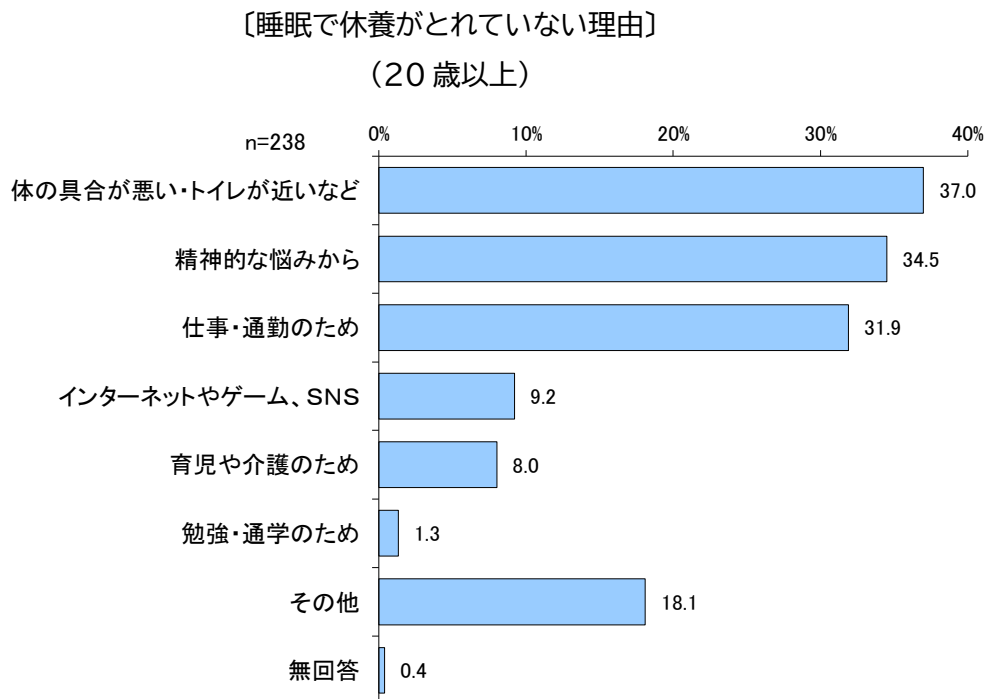
(2) ストレス・飲酒

ア. 主な取組

- 庄原商工会議所、備北商工会、東城町商工会の会報配布に併せ、健康、身体活動に関する情報提供を行いました。
- ひきこもり当事者や家族、精神的不安のある人が安心して過ごすことができる場、相談できる場、役割を感じられる場づくりを支援しました。
- 小・中学校において、薬物乱用防止教室を行いました。
- 事業所において、従業員のストレスチェックを行いました。

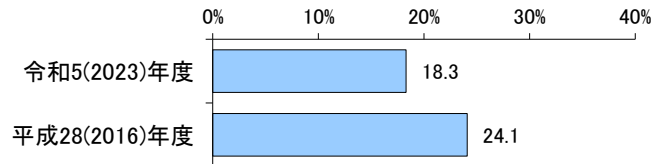
イ. 健康意識・生活習慣調査結果

- 睡眠で休養がとれていない理由として、「体の具合が悪い・トイレが近いなど」、「精神的な悩みから」、「仕事・通勤のため」が上位でした。

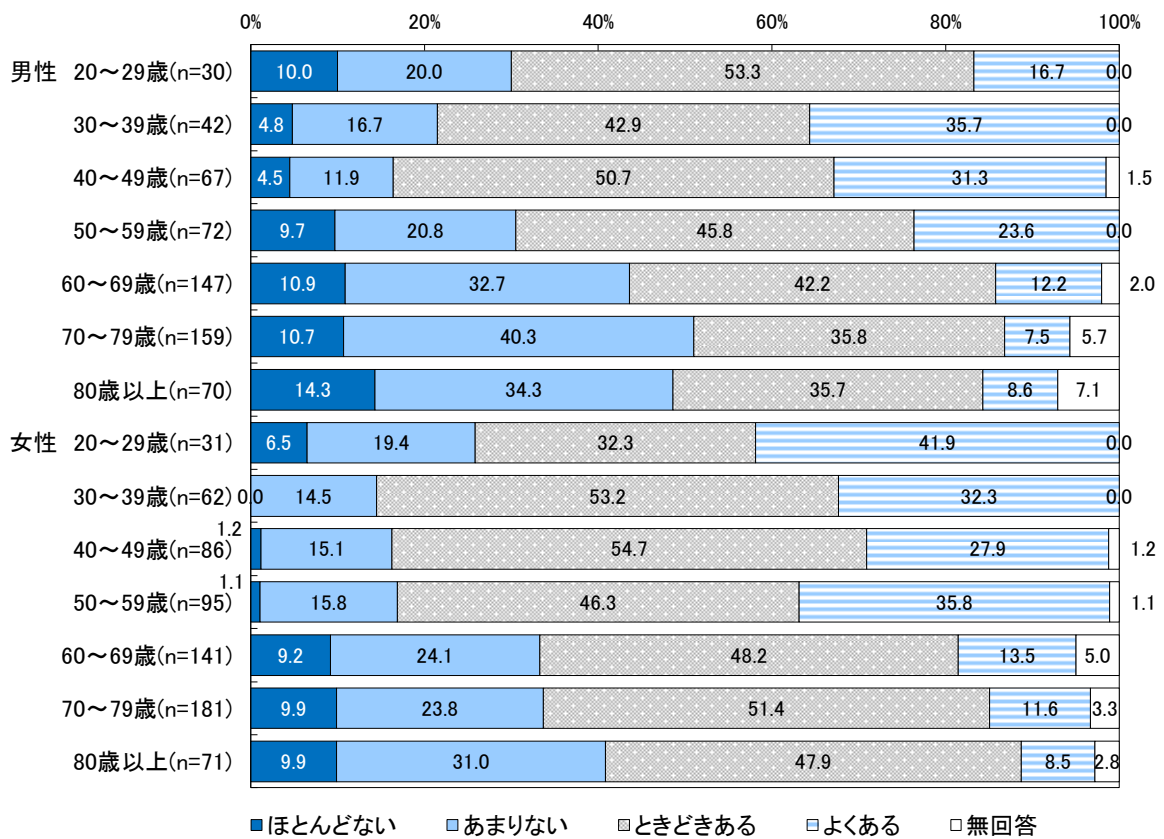


- ストレスを感じる人がよくある人の割合は約2割と低下していますが、男性の30～40歳代、女性の20～30歳代・50歳代で高くなっています。

〔ストレスを感じる人がよくある人の割合(前回調査結果との比較)〕
(全体(20歳以上))



〔ストレスの有無(性・年代別)〕
(20歳以上)

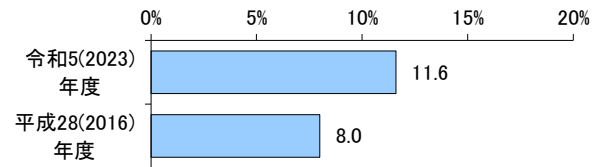
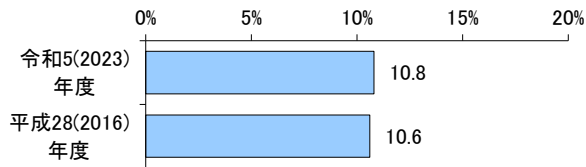


- 適正飲酒を超えて飲酒している人の割合（男性2合以上・女性1合以上飲酒者）は、男性では変化がありませんが、女性でやや上昇しています。

〔適正飲酒を超えて飲酒している人の割合(前回調査結果との比較)〕

(20歳以上男性(2合以上飲酒者))

(20歳以上女性(1合以上飲酒者))



ウ. 3次計画目標指標の達成状況

		3次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
成果目標					
ストレスを感じることがよくある人の割合	全体	24.1%	18.3%	22.0%	A
	20～50歳代	37.0%	30.7%	34.0%	A
普通の睡眠で十分休養が取れていない人の割合	全体	17.5%	18.8%	16.0%	D
	20～50歳代	26.0%	26.4%	24.0%	D
適正飲酒を知っている人の割合		-	43.2%	20.0%	A
適正飲酒を超えて飲酒している人の割合（男性2合以上・女性1合以上飲酒者）	男性	10.6%	10.8%	9.5%	D
	女性	8.0%	11.6%	7.2%	D
取組目標					
事業所へのメンタルヘルス情報提供（延回数）		1回	1回(R4)	20回	C
ひきこもり等の心に不安がある人を支える場の数		2か所	6か所(R4)	7か所	B
事業所への健康情報の提供回数(飲酒)		0回	1回(R4)	20回	B
中学校・高校で情報提供した学校数(飲酒)		7校	7校	11校	C

エ. 取り組むべき主な課題

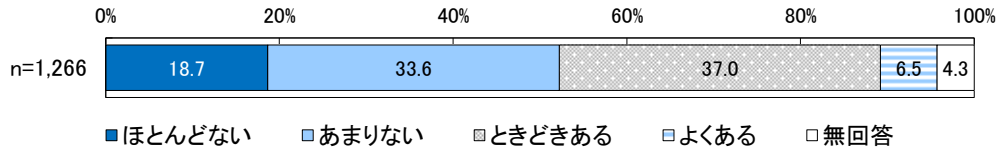
- 若い世代や働く世代へのストレスとの向き合い方の啓発等、こころの健康対策の充実
- 良質な睡眠習慣を確保するための啓発
- 多量飲酒の防止に向けた啓発

(3)自殺・うつ予防

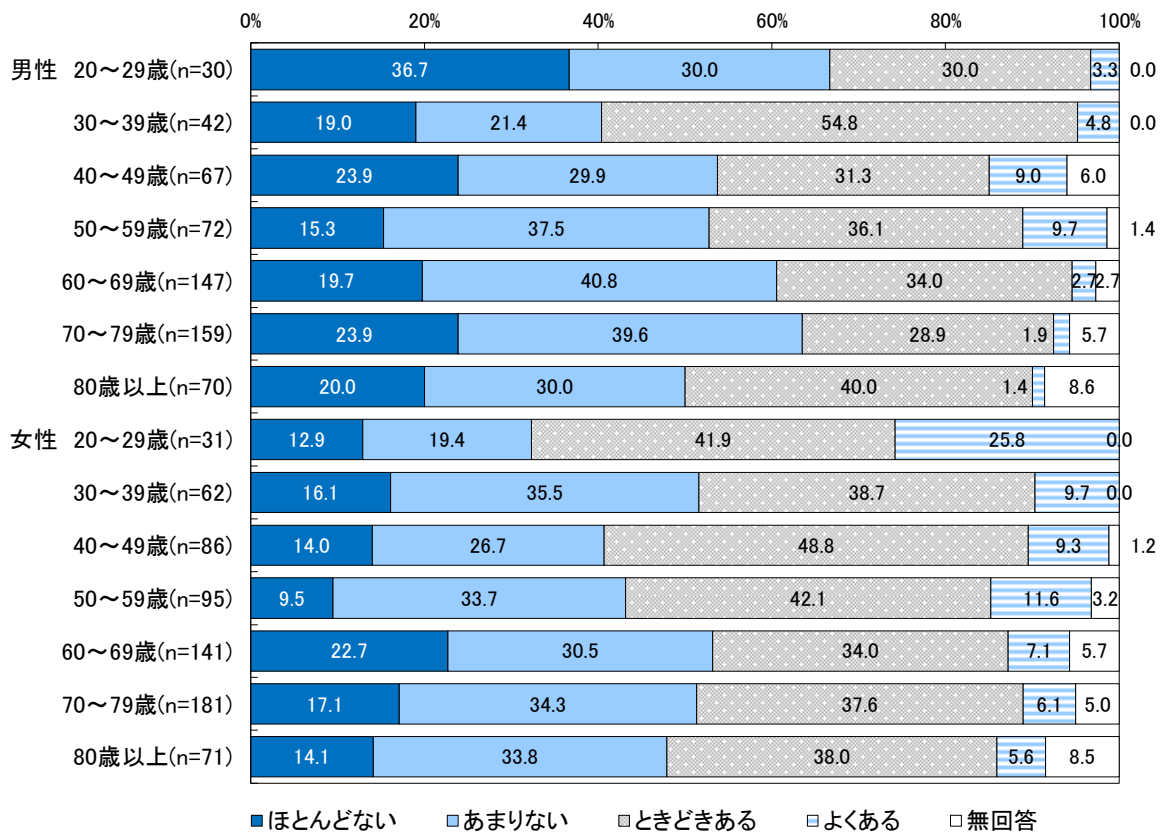
ア. 健康意識・生活習慣調査結果

- 「気持ちが落ち込んだり、不安になること」がよくある人は6.5%ですが、女性の20歳代では2割台半ばとなっています。

〔気持ちが落ち込んだり、不安になることの有無〕
(20歳以上)

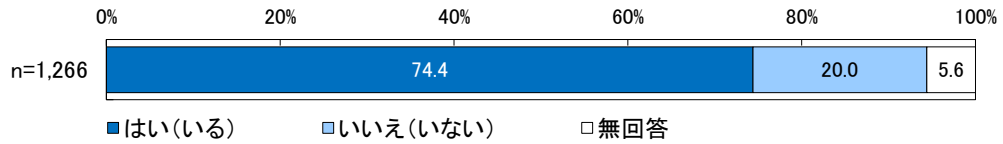


〔気持ちが落ち込んだり、不安になることの有無(性・年代別)〕
(20歳以上)

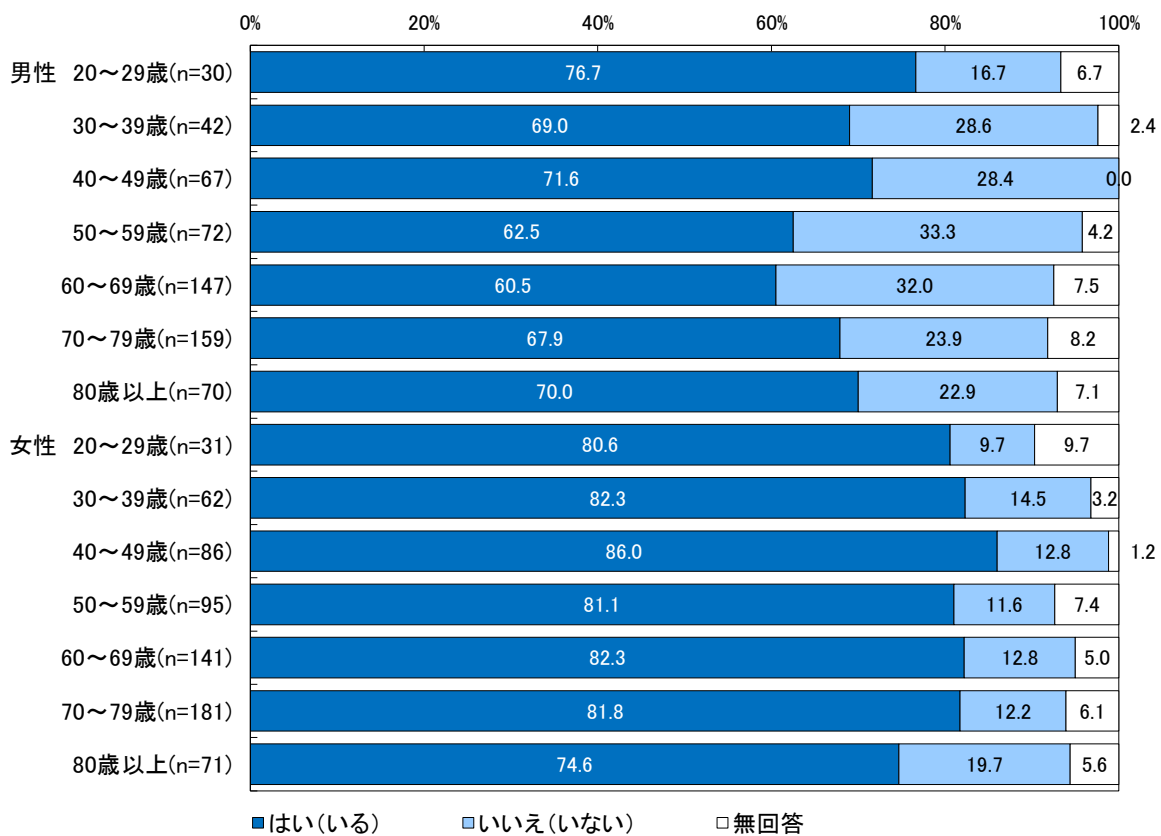


- 相談できる人がいない人は2割であり、男性50～60歳代で高くなっています。

〔相談相手の有無〕
(20歳以上)



〔相談相手の有無(性・年代別)〕
(20歳以上)



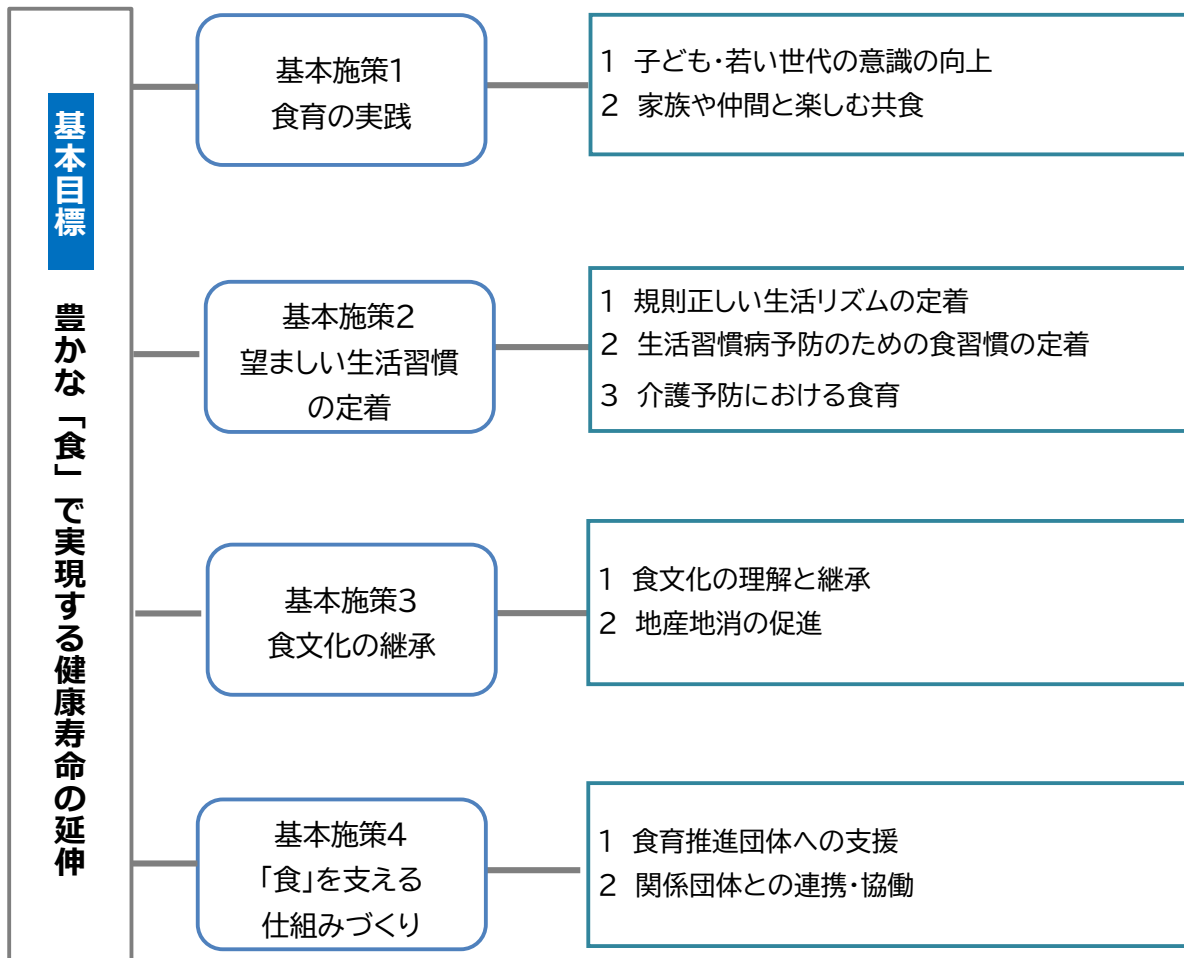
イ. 3次計画目標指標の達成状況

		3次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
成果目標					
落ち込んだり不安になること がよくある人の割合	全体	7.8%	6.5%	7.0%	A
	20～50歳代	11.4%	10.1%	10.0%	B
悩みを抱えたときに相談できる人がいない 人の割合 (50歳代男性)		40.3%	33.3%	36.0%	A

※「主な取組」、「主な課題」は、3「第1次いのち支える庄原プラン（庄原市自殺対策計画）」の
評価（P.60～63）に記載

2 「第3次食育推進計画」の評価

◆第3次計画体系図



基本目標 豊かな「食」で実現する健康寿命の延伸

(1)食育の実践

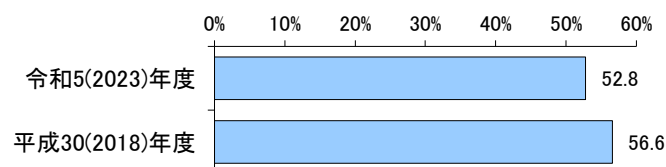
ア. 主な取組

- 保育所、小・中学校において菜園活動やクッキング等の体験型食育を行いました。
- 保育所、小・中学校において、食品の安全性や栄養等の学習、給食だより等による食の啓発を行いました。
- 小・中学校において「弁当の日」を設けました。
- 給食だより等を通して食育推進キャラクター「5つのちから」のそれぞれの意味を伝えました。
- 学校栄養職員や地域の食育団体等と連携した料理教室は、令和2（2020）年度から新型コロナウイルス感染症の影響により開催できず、各小学校を通じて資料提供による啓発を行いました。
- 小学生を対象として、食育ポスターコンクールを実施し、作品を市内の店舗で展示しました。
- 男性料理教室において、新型コロナウイルス感染症の影響で調理実習は実施できませんでしたが、月に1回集まり、会員の近況報告や健康情報の提供を行いました。
- 自治振興区において、多世代が参加できる料理教室や男性料理教室を行いました。

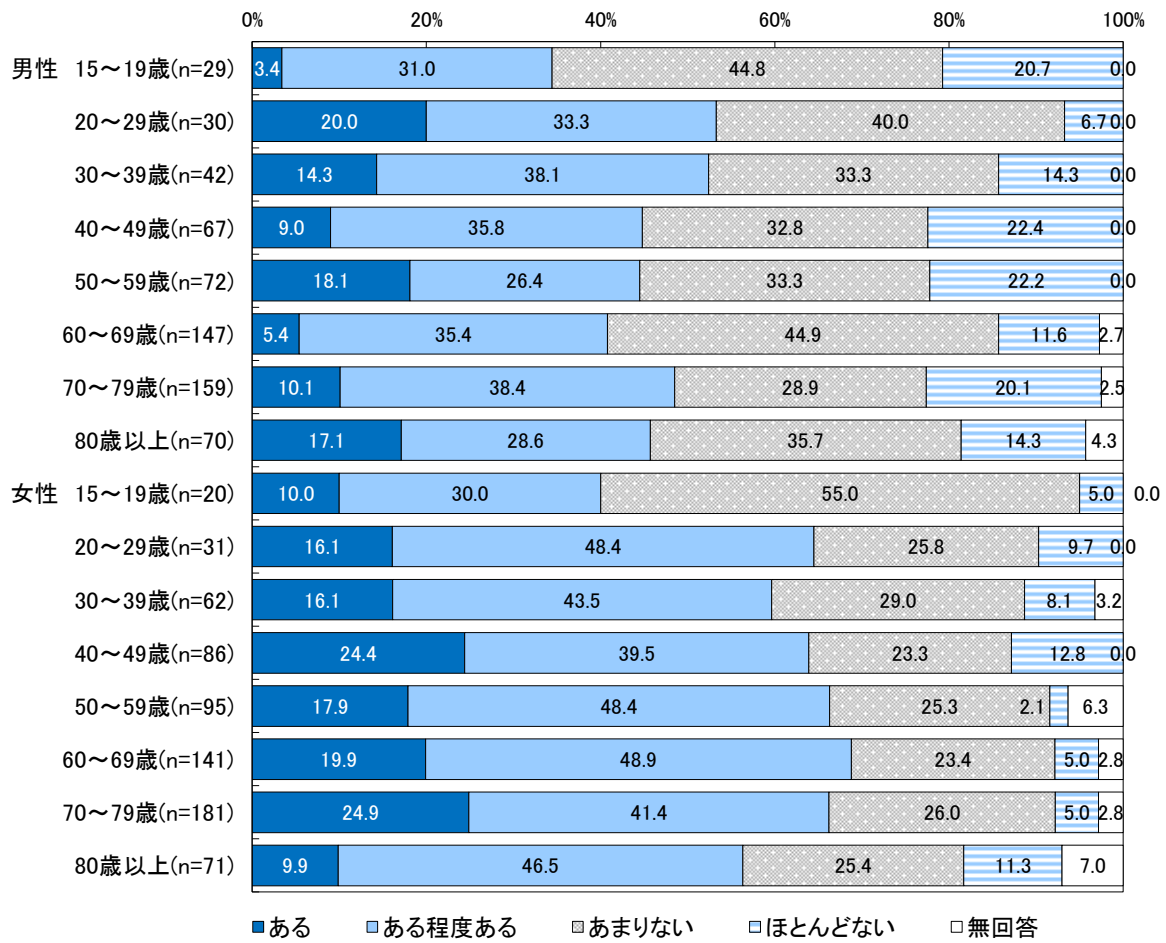
イ. 健康意識・生活習慣調査結果

- 食育に関心を持っている人の割合は低下しており、男性、若い世代で低くなっています。

〔食育に関心を持っている人の割合(前回調査結果との比較)〕
(15～39歳)

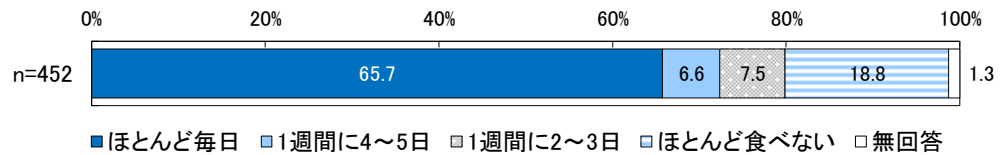


〔食育への関心度(性・年代別)〕
(15歳以上)

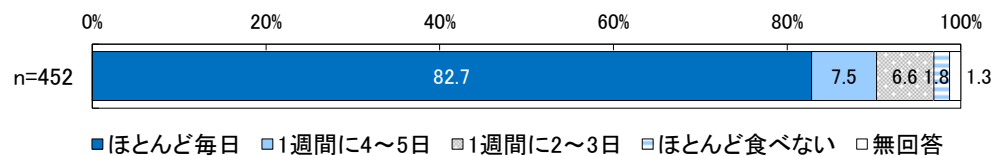


- 家族と一緒にほとんど食べないと回答した小・中学生の割合は、朝食で約2割、夕食で1.8%となっています。

〔家族と朝食を食べる頻度(小・中学生)〕

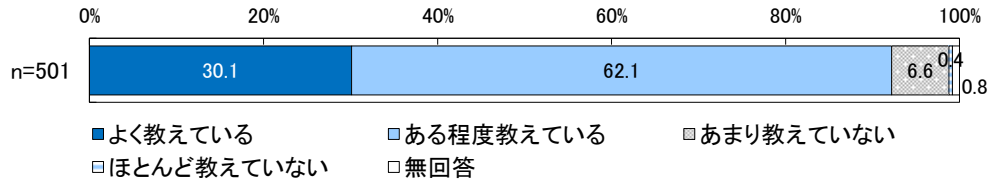


〔家族と夕食を食べる頻度(小・中学生)〕



- 子どもに食事の時のきまりやマナーを伝えている保護者の割合は9割を超えています。

〔子どもに食事の時のきまりやマナーを教える状況(保護者)〕



ウ. 3次計画目標指標の達成状況

		3次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
成果目標					
食育の言葉も意味も知っている人の割合	小学5年生	30.8%	19.7%	40.0%以上	D
	中学2年生	35.5%	46.2%	45.0%以上	A
	15~39歳	56.6%	53.3%	65.0%以上	D
食育に関心を持っている人の割合	15~39歳	56.6%	52.8%	65.0%以上	D
食品の安全性について基礎的な知識を持つ人の割合	15~39歳	46.7%	60.3%	55.0%以上	A
日頃食事を作っている(よく作っている)児童、生徒の割合	小学5年生	8.0%	7.4%	20.0%以上	D
	中学2年生	9.1%	4.0%	20.0%以上	D
朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加	15歳以上	週11.9回	週10.6回	週13回以上	D
子どもに食事の時のきまりやマナーを伝えている保護者の割合	15歳以上	91.8%	92.2%	95.0%以上	B
地域の行事やイベント、料理教室、体験事業等に参加した人の割合	15歳以上	-	6.4%	50.0%以上	B
取組目標					
食育推進キャラクターの活用施設数		11施設	24施設(R4)	20施設以上	A
子ども食育教室の実施回数		10回	※(R4)	10回以上	D
男性料理教室の実施数		82回	12回(R4)	82回以上	D

※新型コロナウイルス感染症の影響により、食育教室は実施しなかった。

エ. 取り組むべき主な課題

- 効果的な食育を実践するために、若い世代、男性への食育の関心度を高める啓発
- 共食をすることで、小・中学生の食育に関する理解を深め、実践につながる取組

(2)望ましい生活習慣の定着

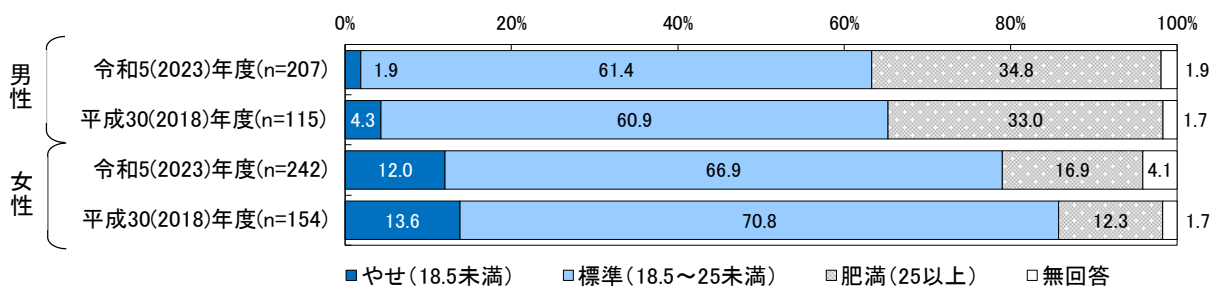
ア. 主な取組

- 保育所、小・中学校において、規則正しい生活習慣や給食を通じてよりよい食習慣について児童、生徒や保護者に啓発しました。
- 保育所、学校給食において、庄原減塩の日、庄原野菜の日、庄原和食の日を通し、生活習慣病について啓発しました。
- 「血管いきいきプロジェクト」の一環として、減塩に関する栄養指導媒体を西城市民病院の保健師、管理栄養士と協働して作成し、健診会場等に掲示しました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、店舗でのイベントは行わず、生活習慣病に関するパネル掲示等を行いました。
- 備北地域保健対策協議会の関係機関と協力し、「減塩」「野菜たっぷり」メニューの提供に取り組む飲食店等を健塩応援店として認証し、減塩と野菜摂取の取組を推進しました。
- 出前トークで「生活習慣病予防のための食生活」、「高齢者の食事で気をつけたいこと」、「おいしく減塩できる調理法」について啓発しました。

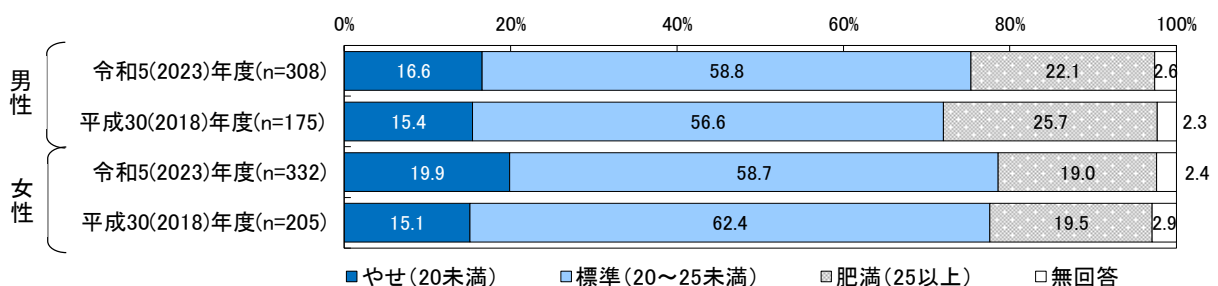
イ. 健康意識・生活習慣調査結果

- 適正体重を維持している人の割合(BMIが標準の人の割合)は、40～64歳、65歳以上の人ともに、男性は変化がみられませんが、女性は低下しています。

〔BMI(前回調査結果との比較)〕
(40～64 歳)

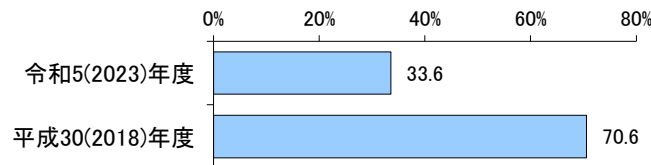


(65 歳以上)

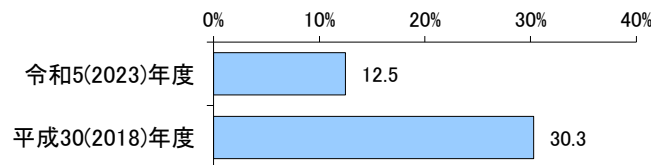


- 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている、野菜を1日350g以上とるようにしている等の食生活に気をつけている人の割合は低くなっており、若い世代、男性で特に低くなっています。

〔主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合
(前回調査結果との比較)〕
(15歳以上)



〔野菜を1日350g以上とるようにしている人の割合(前回調査結果との比較)〕
(15歳以上)

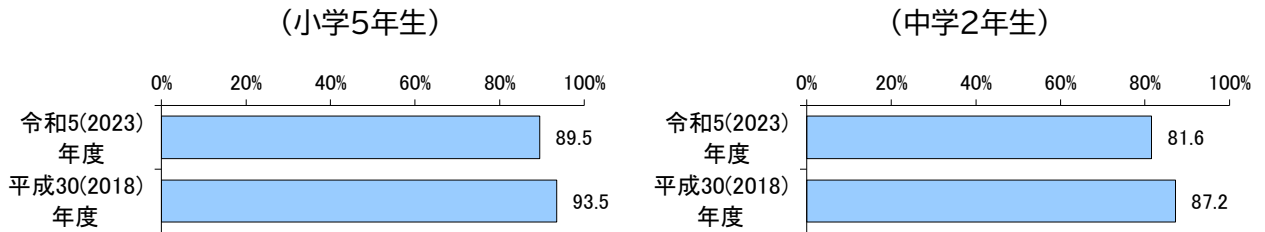


〔食事について気をつけていること(性・年代別)〕
(15歳以上)

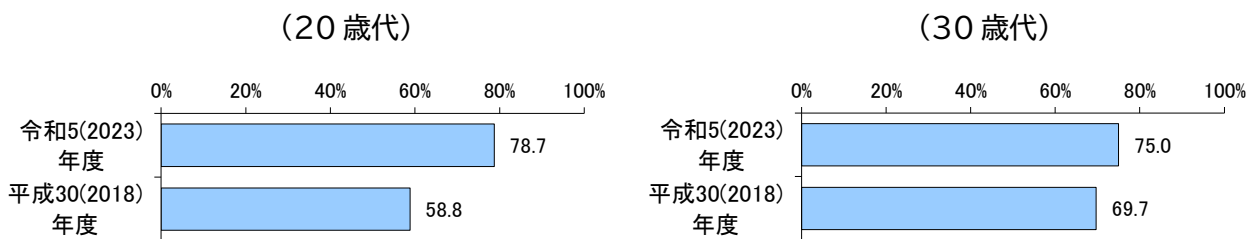
	回答数	1日3食、 食べるよ うにして いる	塩分を控 えるよう にしてい る	主食・主 菜・副菜 を組み合 わせた食 事を1日2 回以上ほ ぼ毎日食 べている	間食を控 えるよう にしてい る	腹八分目 を心がけ ている	毎食たん ぱく質の 含まれる 食事を とってい る	野菜を1 日350g以 上とるよ うに努め ている	その他	無回答
男性 15～19歳	29	51.7%	3.4%	3.4%	10.3%	-	13.8%	3.4%	-	37.9%
20～29歳	30	53.3%	23.3%	30.0%	33.3%	16.7%	20.0%	6.7%	3.3%	30.0%
30～39歳	42	33.3%	16.7%	11.9%	16.7%	7.1%	14.3%	-	7.1%	40.5%
40～49歳	67	41.8%	14.9%	10.4%	14.9%	16.4%	9.0%	9.0%	6.0%	34.3%
50～59歳	72	50.0%	37.5%	23.6%	27.8%	20.8%	12.5%	8.3%	8.3%	29.2%
60～69歳	147	62.6%	29.3%	26.5%	29.9%	19.0%	16.3%	12.9%	2.7%	17.0%
70～79歳	159	63.5%	41.5%	35.2%	24.5%	24.5%	15.1%	15.7%	3.8%	21.4%
80歳以上	70	74.3%	50.0%	42.9%	15.7%	32.9%	27.1%	11.4%	-	14.3%
女性 15～19歳	20	35.0%	10.0%	10.0%	30.0%	15.0%	-	-	10.0%	45.0%
20～29歳	31	61.3%	19.4%	19.4%	16.1%	12.9%	16.1%	9.7%	6.5%	22.6%
30～39歳	62	56.5%	19.4%	30.6%	19.4%	17.7%	21.0%	8.1%	6.5%	29.0%
40～49歳	86	44.2%	23.3%	20.9%	18.6%	23.3%	12.8%	11.6%	3.5%	29.1%
50～59歳	95	55.8%	40.0%	35.8%	25.3%	33.7%	24.2%	12.6%	4.2%	20.0%
60～69歳	141	61.0%	46.8%	42.6%	27.0%	23.4%	30.5%	16.3%	5.7%	13.5%
70～79歳	181	78.5%	67.4%	52.5%	26.5%	26.0%	39.2%	18.8%	1.7%	5.0%
80歳以上	71	83.1%	46.5%	52.1%	22.5%	26.8%	31.0%	14.1%	1.4%	8.5%

- 朝食を食べている人の割合は、小・中学生で低下していますが、20～30歳で上昇しています。

〔朝食を食べている人の割合(前回調査結果との比較)〕

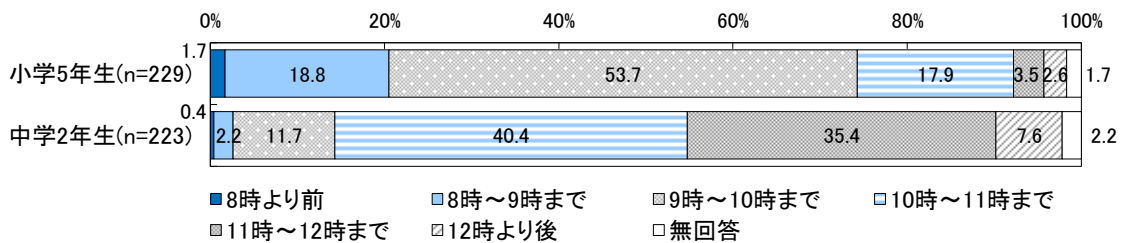


〔朝食を食べている人の割合(前回調査結果との比較)〕



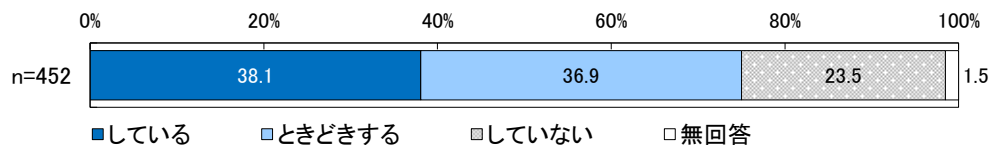
- 就寝時間は中学2年生では午後11時以降の割合が43.0%と高くなっています。

〔就寝時間(学年別)〕



- 寝る直前までスマートフォンの使用やゲームをする状況について、「している」、「ときどきする」と回答した割合が75.0%と高くなっています。

〔寝る直前までのスマートフォンの使用やゲームをする状況(小・中学生)〕



ウ. 3次計画目標指標の達成状況

		3次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
成果目標					
朝食を食べている人の割合	小学5年生	93.5%	89.5%	100%	D
	中学2年生	87.2%	81.6%	100%	D
	20歳代	58.8%	78.7%	70.0%以上	A
	30歳代	69.7%	75.0%	80.0%以上	B
バランスのよい朝食(主食+たんぱく質のおかず+野菜のおかず)をとる子どもの割合	小学5年生	25.6%	34.1%	50.0%以上	B
	中学2年生	21.9%	28.7%	50.0%以上	B
小学生で22時、中学生で23時までに就寝している子どもの割合	小学5年生	69.6%	74.2%	80.0%以上	B
	中学2年生	57.4%	54.7%	70.0%以上	D
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている人の割合	15歳以上	70.6%	33.6%	80.0%以上	D
野菜を1日350g以上とるようにしている人の割合	15歳以上	30.3%	12.5%	40.0%以上	D
塩分を控えている人の割合	15歳以上	44.8%	38.3%	55.0%以上	D
適正体重を維持している人の割合(BMIが標準の人の割合)40~64歳	男性	60.9%	61.4%	70.0%以上	B
	女性	70.8%	66.9%	80.0%以上	D
よく噛んで味わって食べる人の割合	15歳以上	84.0%	84.2%	95.0%以上	B
適正体重を維持している高齢者の割合(65歳以上)	男性	56.6%	58.8%	65.0%以上	B
	女性	62.4%	58.7%	75.0%以上	D
毎食たんぱく質の含まれる食事をとっている高齢者の割合	75歳以上	64.7%	29.6%	75.0%以上	D
80歳で20本以上の自分の歯を持つ人の割合	80歳	28.4%	32.1%	37.0%以上	B
取組目標					
「早寝・早起き・朝ごはん」の定着を図る取組を行っている保育所、小・中学校の割合		-	100% (R4)	100%	A
庄原減塩の日に取り組む保育所、小・中学校の数		-	84% (R4)	100%	B
庄原野菜の日に取り組む保育所、小・中学校の数		-	89% (R4)	100%	B
庄原和食の日に取り組む保育所、小・中学校の数		-	100% (R4)	100%	A
健塩応援店認証店舗数		4店舗	6店舗 (R4)	5店舗以上	A
店舗との生活習慣病予防イベント開催数		7回	※ (R4)	10回以上	D
口腔機能向上のための講座の実施回数		21回	21回 (R4)	21回以上	A
自治会に集まり場(サロン・地域デイホーム)のある割合		76.0%	95.9% (R4)	76.0%以上	A
シルバーリハビリ体操に参加している高齢者の割合		33.3%	32.1% (R4)	40%以上	D

※新型コロナウイルス感染症の影響により、店舗でのイベントは実施しなかった。

工. 取り組むべき主な課題

- 適正体重の維持や食事について気をつけるなど、若い世代、働く世代の食習慣の改善
- 生活習慣病予防など、効果的な食育の実践のための事業所と連携した取組の推進
- 就寝時間と朝食の摂取は関係が深いことを踏まえた、小・中学生の規則正しい生活習慣の定着

(3)食文化の継承

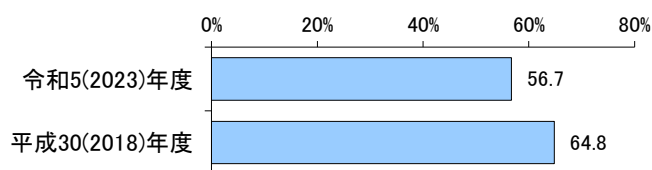
ア. 主な取組

- 新型コロナウイルス感染症の流行以前は、食育推進団体や学校、地域等と連携を図り郷土料理や行事食、豆腐、こんにゃく、味噌づくり教室等を行いました。
- 保育所や小・中学校の給食で、郷土料理や庄原農産物を活用し、啓発を行いました。
- 保育所、小・中学校において、地域の生産者等と連携し、食農体験を行いました。
- 自治振興区において、郷土料理や旬の食材を使った料理教室を行いました。

イ. 健康意識・生活習慣調査結果

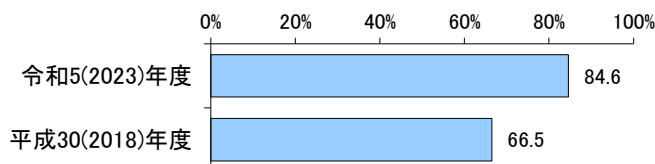
- 行事食や郷土料理に関心がある 15 歳以上の人の割合は 5 割台であり、低下しています。

〔行事食や郷土料理について関心がある人の割合(前回調査結果との比較)〕
(15 歳以上)

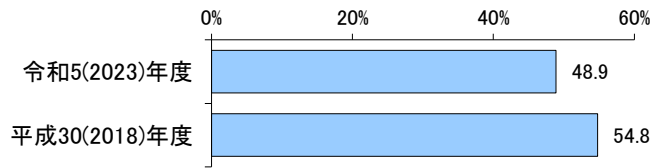


- 「地産地消」について「言葉も意味も知っている」15 歳以上の人の割合は 8 割を超え、上昇していますが、地産地消推進店を知っている人、庄原市内で生産された農産物をよく食べている人の割合は低下しています。

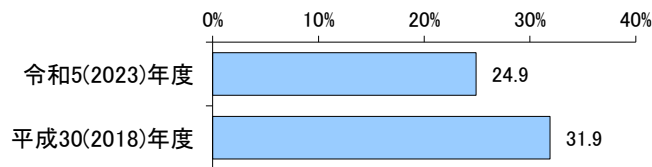
〔地産地消の言葉も意味も知っている人の割合(前回調査結果との比較)〕
(15 歳以上)



〔地産地消推進店舗を知っている人の割合(前回調査結果との比較)〕
(15歳以上)

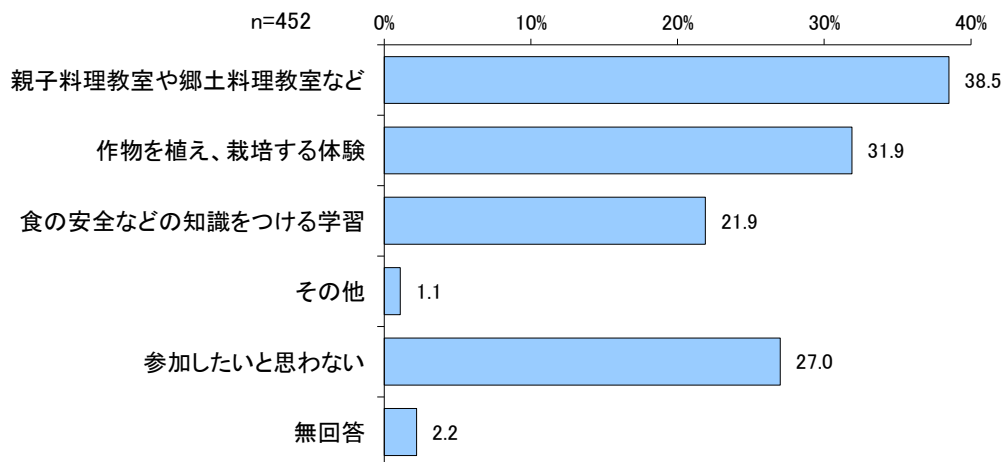


〔庄原産農産物をよく食べている人の割合(前回調査結果との比較)〕
(15歳以上)



- 小・中学生で、参加してみたい食に関する教室や学習として、「作物を植え、栽培する体験」が約3割となっています。

〔参加してみたい食に関する教室や学習(小・中学生)〕



ウ. 3次計画目標指標の達成状況

		3次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
成果目標					
行事食や郷土料理について関心がある人の割合	15歳以上	64.8%	56.7%	75.0%以上	D
地産地消の言葉も意味も知っている人の割合	15歳以上	66.5%	84.6%	75.0%以上	A
地産地消推進店舗を知っている人の割合	15歳以上	54.8%	48.9%	70.0%以上	D
庄原産農産物をよく食べている人の割合	15歳以上	31.9%	24.9%	40.0%以上	D
取組目標					
行事食、郷土料理教室の開催数		13回	※(R4)	15回以上	D
地産地消推進店登録店舗数		38店舗	63店舗(R4)	70店舗	B
庄原食育の日に取り組む保育所、小・中学校数		-	100%(R4)	100%	A

※新型コロナウイルス感染症の影響により、料理教室は実施しなかった。

エ. 取り組むべき主な課題

- 庄原産農産物を食べている人を増やすための情報提供の充実や実践につなげる取組
- 地域と連携した食文化の継承活動、体験活動の推進

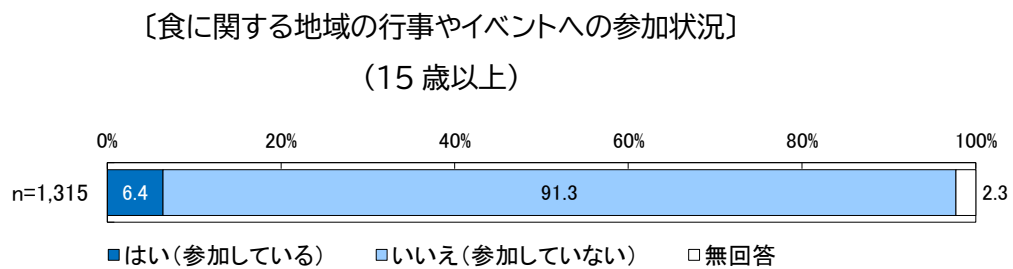
(4)食を支える仕組みづくり

ア. 主な取組

- 各地域の食育推進団体同士が、連携を図るため交流し、学習会を行いました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、店舗でのイベントは行わず、生活習慣病に関するパネル掲示等を行いました。

イ. 健康意識・生活習慣調査結果

- 食に関する地域の行事やイベントに参加している 15 歳以上の人の割合は 6.4% とわずかです。



ウ. 3次計画目標指標の達成状況

	3次計画 策定時実績	令和4 (2022)年度 実績	目標値	評価
取組目標				
食育推進団体を対象とした交流会・学習会の開催	2回	2回	2回以上	A
健塩応援店認証店舗数	4店舗	6店舗	5店舗以上	A
地産地消推進店登録店舗数	38店舗	63店舗	70店舗	B
店舗との生活習慣病予防イベント開催数	7回	※	10回以上	D

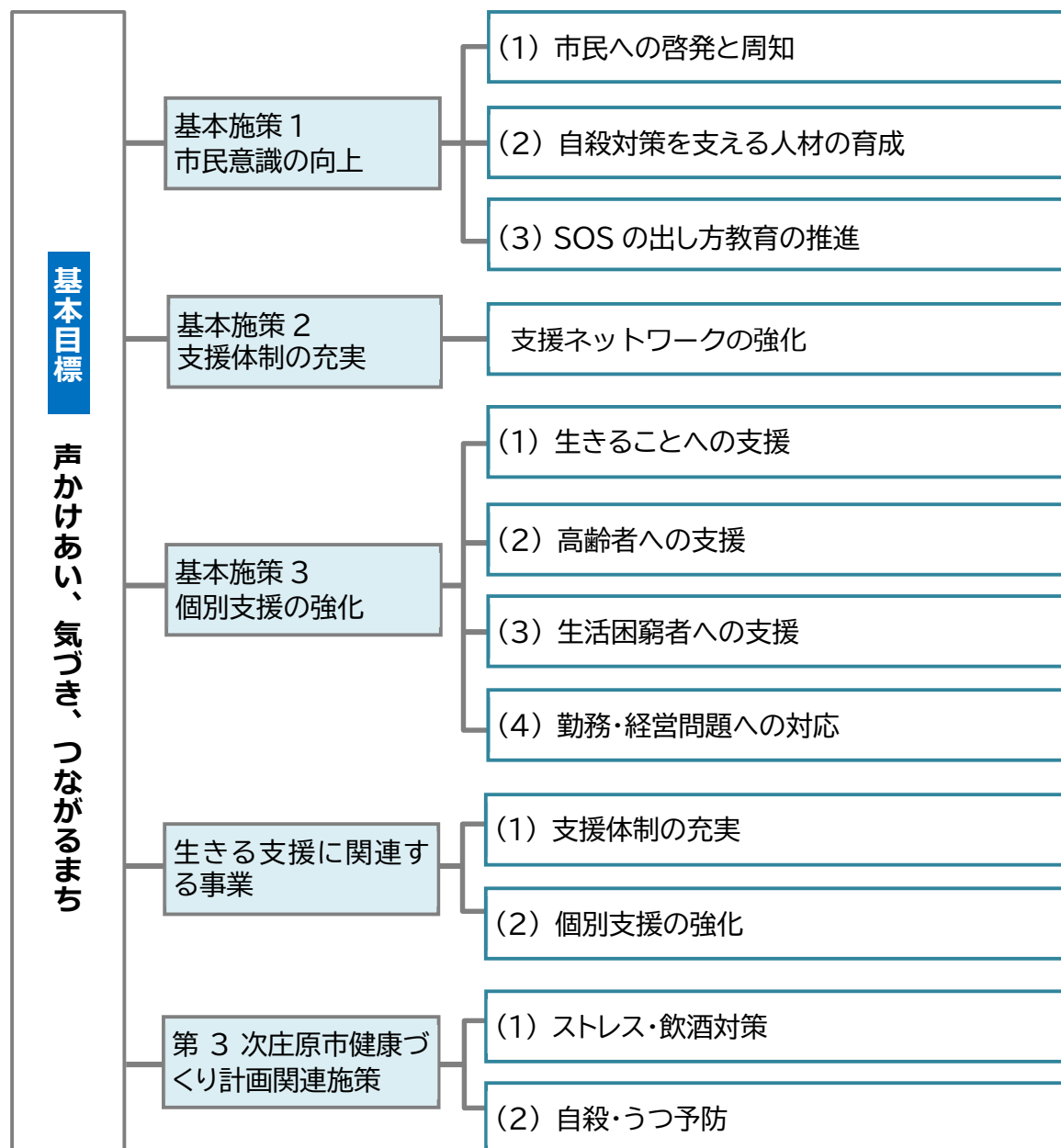
※新型コロナウイルス感染症の影響により、店舗でのイベントは実施しなかった。

エ. 取り組むべき主な課題

- 幅広い年代への啓発として、地域や店舗と連携した食育活動の推進
- 高齢化や担い手不足の現状を踏まえた食育推進団体への活動の参加に向けた仕組みづくりの推進

3 「第1次いのち支える庄原プラン(庄原市自殺対策計画)」の評価

◆第1次計画体系図



≪1次計画全体の目標指標の達成状況≫

	1次計画 策定時実績	平成30(2018)～ 令和4(2022)年 実績	目標値	評価
5年間平均自殺死亡率(※)の減少	40.8 (H25-29)	19.5	35.2以下 (H30-R4)	A

※人口10万人当たりの自殺者数

基本目標 声かけあい、気づき、つながるまち

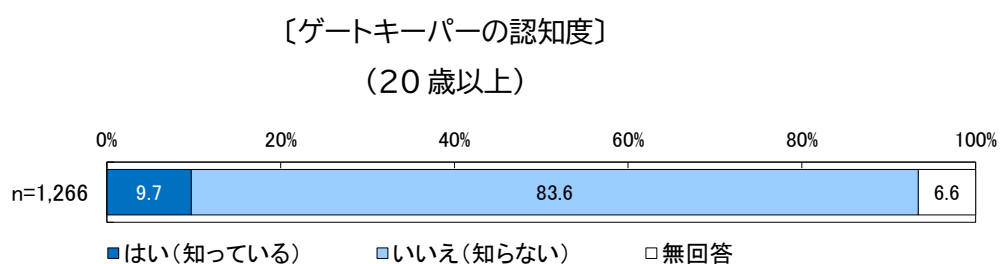
(1) 市民意識の向上

ア. 主な取組

- 様々な場所や機会に相談窓口に関するリーフレットを設置・配布しました。
- ひきこもりを正しく理解し、地域の支援者を増やすことを目的に講演会を行いました。
- 様々な分野に関連する人を対象にゲートキーパー養成講座を行いました。
- 自殺予防週間や自殺対策強化月間にあわせ、市役所庁舎内、図書館、ショッピングセンターにおいて、パネル展示による啓発を行いました。
- 中学生を対象とした「いのちの学習」を通して「いのち」の大切さについて学習する場や相談窓口の情報等を提供しました。
- 保育所、小・中学校において、地域との交流活動を実施し、人とのつながりを実感できる取組を行いました。
- 小・中学校において、児童、生徒や保護者に対しアンケートを実施し、いじめのサインを早期に発見し対応するよう取り組みました。
- 小・中学校において、「子どもの人権 SOS ミニレター」を配布し、SOS の出し方に関して学習する機会を持ちました。
- 庄原商工会議所、備北商工会、東城町商工会の会報配布に併せ、相談窓口やメンタルヘルスについて情報提供を行いました。
- 事業所に対して市の人権セミナー等の情報提供を行い、人権啓発を行いました。

イ. 健康意識・生活習慣調査結果

- ゲートキーパーを知っている人の割合は 9.7%と低くなっています。



ウ.1 次計画目標指標の達成状況

	1次計画 策定時実績	令和5 (2023)年度 実績	目標値	評価
リーフレット等配布回数	2回/年	4回/年(R4)	4回以上/年	A
講演会・パネル展実施数	0回/年	講演会 10回/年(R4) パネル展 6回/年(R4)	1回以上/年	A
ゲートキーパー養成講座実施回数	1回/年	1回/年(R4)	3回以上/年	C
ゲートキーパーを知っている人の割合	9.0%	9.7%	20.0%	B

エ. 取り組むべき主な課題

- こころの健康づくりや自殺対策に関する正しい情報や知識の周知啓発
- 自殺対策を支えるゲートキーパー等の人材育成を通じて、適切な相談対応が行える仕組みづくりと市民意識の向上

(2) 支援体制の充実

ア. 主な取組

- 庄原市健康づくり計画・自殺対策計画策定推進委員会を開催し、健康づくり計画、自殺対策計画の効果的な推進を図るために協議、検討を行いました。
- 精神保健の緊急対応について、関係機関が連携して適切に対応するための情報交換を行いました。
- 高齢者の自立と安心を支える地域づくりのため、関係機関と連携し、地域課題の解決に向けた方針を共有し取組を検討しました。
- 生活困窮者の自立を支援するため、関係機関と連携を図りました。

イ.1 次計画目標指標の達成状況

	1次計画 策定時実績	令和4 (2022)年度 実績	目標値	評価
庄原市健康づくり計画・自殺対策計画策定推進委員会の開催	2回/年	1回/年	2回/年	D

ウ. 取り組むべき主な課題

- 自殺に至る危機経路は様々であるため、多分野の関係機関との連携を図るとともに支援のネットワークを強化

(3)個別支援の強化

ア. 主な取組

- 孤立のおそれのある人も含め、個人と地域がつながり、いきがいに結びつくことができるよう、様々な居場所づくりの立ち上げや支援を行いました。
- 乳幼児健診や育児相談、家庭訪問などを通して、保護者の子育てに関する悩みや相談に対応しました。
- 電話や面接、家庭訪問などにより、体や心の悩みに関する相談に対応しました。
- 精神疾患の早期発見や治療につなげていくため、専門医による心の健康相談との連携を図り、相談者への支援を行いました。
- 保育所、小・中学校において、地域との交流活動を実施し、人とのつながりを実感できる取組を行いました。
- 保育所、小・中学校において、児童、生徒の相談に応じる環境を整備しました。
- 自治振興区において、サロン活動等、人とのつながりを持つ活動を行いました。
- 事業所において、ストレスチェックの実施や相談体制の充実を図るなど、メンタルヘルスに取り組みました。
- 生活が困窮している人からの就労、その他自立の相談に応じ、必要な情報の提供等を行い、自立促進を図るための支援を行いました。
- 地域包括支援センターや老人介護支援センターにおいて、訪問等により、うつや閉じこもりに対する支援が必要な高齢者を把握し、介護予防事業等につなげました。

イ. 1次計画目標指標の達成状況

	1次計画 策定時実績	令和4 (2022)年度 実績	目標値	評価
ひきこもり等のところに不安がある人を支える場の数	4か所	6か所	7か所	B
自治会に集まり場(サロン・地域デイホーム)のある割合	76.0%	95.9%	97.5%以上	B
老人クラブの会員登録率	38.1%	40.3%	38.4%	A
認知症カフェの設置数	3か所	4か所	7か所	B

ウ. 取り組むべき主な課題

- 若い世代、働く世代のこころの健康の対策の充実
- 小・中学校との連携、事業所等へのメンタルヘルスに関する情報提供
- 悩みを抱える人の「居場所づくり」と利用しやすい相談体制の整備

4 今後取り組むべき課題

(1)健康づくり計画

ア. 歯と口の健康

40歳で喪失歯のある人が3割を超え、かかりつけ歯科医を持たない若い世代が多いことから、若い世代から歯と口の健康についての理解を促し、歯間ブラシやデンタルフロスの使用など適切な口腔ケアの実践や定期的な歯科健診等の行動につなげる取組を進めることが必要です。

イ. 身体活動・運動

週1回以上運動している人の割合は全体では増加しましたが、働き盛りの年代では時間にゆとりがなく運動をしていない人が多いことから、日常生活のなかで気軽に取り組める身体活動や運動の普及が必要です。

また、高齢者や体の調子が悪い人も取り組みやすい体操や運動を普及する必要があります。

ウ. 生活習慣病予防

健診が受診できていない年齢や就労状況等の属性に合わせた受診しやすい環境づくりを進めるとともに、健診結果を日常生活の改善に活かす取組を進めることが必要です。

また、国民健康保険医療費では糖尿病や高血圧症が上位であることから、引き続き高血圧や糖尿病の発症予防や重症化予防に取り組む必要があります。

エ. 喫煙対策

喫煙が様々な病気の原因のひとつであることから、引き続き喫煙が健康へ及ぼす影響について啓発することが必要です。

また、喫煙している人の割合はやや低下していますが、吸っている人の中では「やめたい」と回答した人がいることから、今後も禁煙を支援する取組を進めることが重要です。

オ. 飲酒対策

引き続き飲酒が心身の健康へ及ぼす影響について啓発を行うことが必要です。

また、適正量を超えて飲酒する人が増えたことから、多量飲酒の防止についての啓発に取り組む必要があります。

カ. 地域活動

地域の人とのつながりが楽しみやいきがいにつながるよう、引き続き地域とともに声かけや見守りを行うとともに、集まり場の立ち上げや活動支援に取り組むことが重要です。

また、地域の健康課題を、自治振興区や地域の健康づくりを支える担い手と共有し、取組を推進することが必要です。

※「栄養・食生活」については食育推進計画、「ストレス」「自殺・うつ予防」については自殺対策計画の中で課題の整理を行う。

(2)食育推進計画

ア. 食育への関心・理解

食育に関心を持っている人の割合は低下しており、食育の日（毎月19日）や食育月間（6月）を中心に継続した啓発や、実際に体験することでより深い理解につながる取組が必要です。

また、食品の安全性や食品ロス削減、災害時の備蓄など、さらに関心を高め実践、備えにつなげていく必要があります。

イ. 共食

家族や仲間、地域での共食は、食事のマナーの習得や情報交換の場として重要な機会ですが、ライフスタイルや家庭環境も大きく作用することから、より具体的な取組が必要です。

ウ. 望ましい生活習慣の定着

就寝時間と朝食の関係は大きいことから、子どもの時からの規則正しい生活リズムの定着に向け、家庭や各機関と連携した取組が重要です。

エ. 生活習慣病予防

塩分を控えている人や1日の野菜摂取量が目標値に達している人の割合は低下しており、昨今の物価上昇等の社会情勢も一つの要因と考えられますが、引き続き子どもの時からの薄味や野菜摂取などの食習慣を定着させる取組が重要です。

また、事業所と連携し、働く世代への啓発を積極的に行うことが必要です。

オ. 介護予防

食事量の減少や食事内容の偏りは、筋力の低下を招き社会参加や身体活動に影響を及ぼすことから、一人ひとりの状況にあったフレイル予防の取組が必要です。

カ. 地産地消

地産地消の理解は進んでいますが、庄原産農畜産物を購入しやすい仕組みづくりや食べる機会を増やす取組が必要です。

キ. 食文化の理解と継承

行事食や郷土料理に関心がある人の割合は低下していることから、世代間や地域と連携した取組が必要です。

ク. 食に関する団体への支援

高齢化や人材不足から活動を縮小、継続できない状況がある中、新たな人材育成のため、情報提供や持続可能な仕組みづくりに向けた取組が必要です。

ケ. 食環境

店舗と連携した情報提供や生活習慣病予防の取組が継続して必要です。

(3) 自殺対策計画

ア. ストレス対策

新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出や地域活動への参加を控えた状況や、様々な活動の継続が困難となった状況があることから、今後も集まり場や相談の場等を継続的に実施することが必要です。

また、働く世代にストレスをよく感じる人が多いことから、事業所と連携したストレス対策や、ライフステージに応じた健康づくりや社会的孤立の防止につなげるのが重要です。

イ. 市民意識の向上

うつ・自殺予防については、一人ひとりの気づきと理解が大切であることから、様々な機会を通して、正しい情報を確実に伝える取組が必要です。

また、お互いに気づき、声をかけ合う近隣関係の再構築や関係機関と連携し、「気づく」、「聴く」、「つなぐ」、「見守る」体制づくりが重要です。

ウ. 支援体制の充実

社会的な情勢を背景とし、市民を取り巻く生活課題が複雑化、複合化する中、全市的に取り組み地域共生社会の推進を図るとともに、自殺に至る様々な危機経路を踏まえ、地域の関係機関・団体等との連携を強化した取組を進めていくことが重要です。

工.個別支援の強化

相談相手がない人への対応や、他者と話す機会の提供として悩みを抱える人の「居場所づくり」が必要です。

また、引き続き市の各担当課や関係機関において、子育て世帯、高齢者、障害のある人、生活困窮者、性的マイノリティ等を対象として、相談や必要な支援を行うなどの取組を進めていくことが重要です。

